

# 2022 年度 日本語教育実習報告書

東京女子大学

日本語教員養成課程



はじめに

東京女子大学の日本語教育実習に毎年お力添えいただき、誠にありがとうございます。今年度もすべての実習が終了し、報告書をまとめることができました。

石井恵理子先生といっしょにこの日本語教育実習に携わって 10 年が過ぎました。毎年、準備の段階では、学生たちのハッ！とさせられる楽しいアイデアに驚いたり、準備の時間の合間に就職活動をする学生の頑張りを見たり、時には、グループ内での学生の小さなトラブルにハラハラしたり、本当にいろいろありで気の抜けない日本語教育実習です。しかし、学生たちにとっては、日本語学習者に直接触れ合い、日本語教育をじかに味わうことのできる貴重な教育実習は、辛い準備やトラブルを補って余りある経験になっているはずです。これもご協力いただきました日本語学校、そして関係者の皆様のご支援があってこそ、できたことです。改めまして心より感謝申し上げます。

日本語教育実習 講師 吉本恵子

学生の皆さんは 2 年次より日本語教育の学びを歩み始め、今年度、実習に臨みました。その歩みと学びがこの報告書に込められていることでしょう。また、今年度の日本語教育実習を支えてくださったすべての皆さんに心よりお礼を申し上げます。今後ともお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

日本語教員養成課程担当 松尾慎



# ◇2022 年度 日本語教育実習報告書◇

## ～目次～

### はじめに

日本語教育実習の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

「日本語教育実習」全体の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 実習報告：学内実習（フィールド実践 A）

はなび・・ 9

ホラーナイト・・ 21

### 実習報告：学外実習（フィールド実践 B・C）

2022 年度 学外実習受入日本語教育機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

インターカルト日本語学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

カイ日本語スクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

新宿日本語学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

ラボ日本語教育研修所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77

### 実習を振り返って - 個人レポート概要

学内実習（フィールド実践 A）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91

学外実習（フィールド実践 B・C）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95



## 日本語教育実習の概要

### 1. 日本語教育実習の目的

日本語教育の実際は、多様である。日本国内においても、日本語学校や大学等教育機関として長期的に日本語教育を行う場合と、中国帰国者や技術研修生等に対して短期間集中的に初期指導を行う場合、また地域の日本語教室のように地域を基盤として行われる場合とでは、日本語教育の目的や教育内容・方法等に大きな違いがある。また、たとえば日本語学校であっても、学習者の背景や、教育機関の設置形態、教育設備等の環境などさまざまな違いがある。国内と海外では、社会の言語環境など学習者や日本語教育の場を取り巻く環境も大きく異なる。そうした多様な現場において、教える立場に立つ者に求められることも当然同じではない。

この日本語教育実習では、大学を卒業した後、どのような日本語教育の場に関わるとしても、そこでの日本語教育が何のためにあるのかを考え、学習者や学習の場を取り巻く環境をよく見、そのうえで自分がどのような役割を担い何をすべきかを判断できる力をつけることを目標とする。

### 2. 日本語教育実習の構成

「日本語教育実習」は、以下の3つの部分で構成される。(図「日本語教育実習全体の流れ」参照)

#### ① 事前準備

講義等による指導を受けると同時に、学習者のニーズや日本語教育の目的、学習環境などに関して事前に情報収集を行い、自分が関わる日本語教育の位置づけを理解し、自分の役割の明確化・実習の目標設定を行う。

#### ② フィールド実践

実際に、日本語教育の現場で学習支援の活動を行う。その際、目標設定に合わせて、振り返りのためのデータを収集する。

#### ③ 振り返り

自分自身の目標に照らして、フィールド実践がどうであったかを収集したデータの分析をふまえて振り返る。

学習者と直接向き合って学習支援を行う「フィールド実践」を中心に、事前に自分が関わる学習の場についての情報を得る「事前準備」を十分に行い、実践での各自の目標を設定すること、また実際に自分が行った学習支援活動について、自分自身の意識、学習者の反応、指導担当の先生をはじめとする受け入れ期間の人々からのフィードバックなどを踏まえて「振り返り」を行う、これら3つの部分全体をもって「日本語教育実習」とする。

※「フィールド実践」は通常は以下のA～Cの3つの形態で実施するが、2022年度はコロナ禍の影響によりA. スクール・シミュレーション型(学内での実践)は中止し、オンラインクラス2クラスを開講した。

#### A. スクール・シミュレーション型(学内での実践)

学内に学習者を集めて5日間の日本語コースを開設する。コース設計から、学習者の募集・

選考、教案作成、授業実施まで、全てを学生が自主的に運営して行う。

#### **B. 短期集中型（学外での実践）**

学外の日本語教育機関において2週間程度、集中して実践を行う。授業での役割や支援の内容は、担当教師のコース計画に従う。

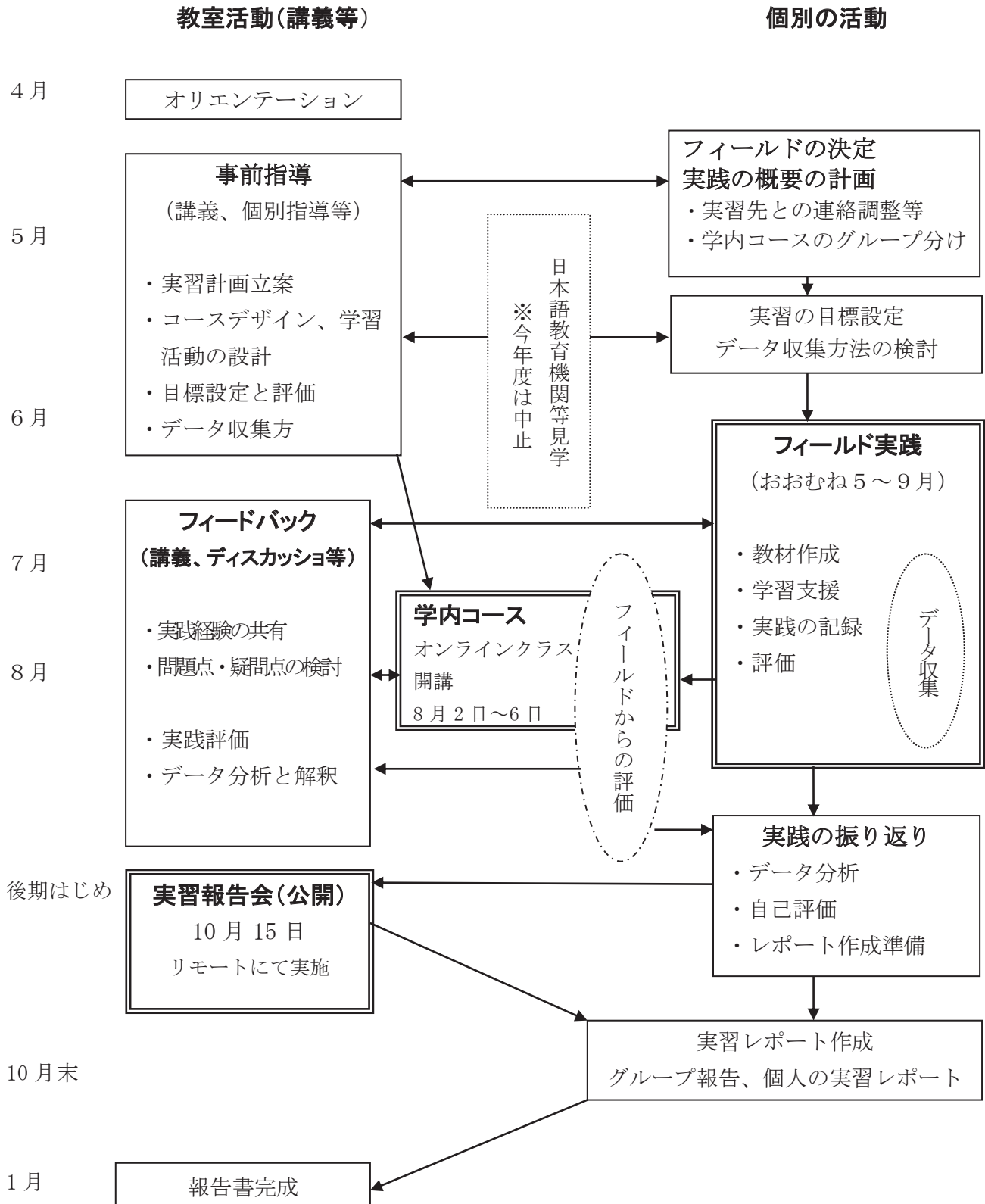
#### **C. 長期継続型（学外での実践）**

学外の日本語教育機関で、一つのクラスに一定期間（2～3ヶ月程度）継続的に参加する。いわばティーチングアシスタントとして、クラスを担当する教師と共に、授業に参加し、学習支援を行う。授業での役割や支援の内容は、担当教師のコース計画に従う。

フィールド実践と並行して行われる毎週の授業、あるいは実践終了後の実習報告会では、それぞれの機関での実践の経験をお互いに共有することで、自分が関わる教育現場（フィールド）の特性をより明確に理解し、そこでの活動の一つ一つが、何のために、なぜそのようなやり方で行われたのかを考える契機となることを促進する。それぞれの異なる経験を共有することによって、自分自身の経験をより広く深いものにすることは、教師に求められる重要な行動でもあるからである。

これらの過程を経て、実習についての報告をグループごと（学内実習はコースごと、学外実習は実習を行った機関ごと）に作成し、各個人の振り返りをレポートにまとめた。

## 【実習全体の流れ】



## 2022年度「日本語教育実習」講義スケジュール

担当： 石井恵理子  
吉本恵子

講義 全14回

回	月日	理 論	実 践
1	4月15日	オリエンテーション コース概要説明	
2	4月22日	コースデザイン 1	学習者の背景を考える
3	5月6日	コースデザイン 2	学習者のレベルと初級授業
4	5月13日	日本語授業の組み立て方	授業の準備
5	5月20日	学習リソース	教材・教具の利用
6	5月27日	学習活動の設計	教材・教具の利用
7	6月3日	実習先発表・実習班に分かれてチームミーティング	
8	6月10日	授業の観察・評価	初級から中・上級へ
9	6月17日	授業の分析・評価	オンライン実習準備(コース設計) (5日間の大枠検討)
10	6月24日	学習活動の設計2	
11	7月1日	オンラインクラス コース内容・ポスター案発表 意見交換  * 13時ポスター案〆切 * 7/5(火)13時 修正ポスター締切、印刷 7/6(水)発送	
12	7月8日	計画シート作成	オンライン実習準備(授業案作成)
13	7月15日	実習班に分かれてチームミーティング	
14	7月22日	学外実習報告 評価シート記入	

- ・オンライン実習期間…8月コース:8/2(火)3(水)4(木)5(金)6(土)  
はなびチーム19:00～21:00、ホラーナイトチーム18:30～20:00
- ・実習報告会(公開)…10月15(土)9:00～12:00 オンライン開催

◆実習報告◆

学内実習  
(フィールド実践 A)



ようかい ずかん つく

# 妖怪図鑑を作ろう!

ようかい  
妖怪…あやしい化け物のこと

ちが  
ゴーストやモンスターとは違う!

ずかん え しゃしん つか  
図鑑…絵や写真を使って、

ものごと せつめい ほん  
物事をわかりやすく説明した本のこと



おに にほん ようかい  
カッパや鬼など、日本にはたくさんの妖怪がいます。

ようかい しら  
みんなで妖怪について調べたり、

あたり ようかい かんが ようかい くわ  
新しい妖怪を考えたりして、妖怪に詳しくなろう!

ひつげ  
8/ 2,3,4,5,6 (5日間)

にほんじかん よる よる  
日本時間 夜6:30~夜8:00

もう こ し き がつ にち  
申し込みの締め切り: 7月30日  
※定員になり次第、受付を終了します。

ぼしゅうにんすう にん  
募集人数: 10~15人

ようかい  
妖怪のことを  
知らなくても  
だいじょうぶ!  
大丈夫!



おうぼ ひと  
応募できる人

こうこうせい さいいじょう  
・高校生(16歳)以上

ちゅうぎゅういじょう  
・中級以上

かかんさんか ひと  
・クラスに5日間参加できる人

せつめいかい かいさんか ひと  
・説明会に1回参加できる人

せつめいかい にってい がつ にち にち にち  
説明会の日程: 7月12日・22日・23日・27日  
よる よる にほんじかん  
夜6:30~夜7:00(日本時間)



もう こ ほうほう  
申し込み方法

①~⑤の内容をhorrorwcu@gmail.comにメールしてください。

- ①お名前
- ②出身国
- ③E-mailアドレス
- ④使う機器(パソコンまたはスマートフォン)  
※ひとり一台、用意してください。
- ⑤説明会に参加できる日



こま  
困ったときは、  
horrorwcu@gmail.comに  
メールしてください!



せん ちひろ がつみ かく  
**千と千尋の神隠しの**  
 た ぼ めん  
**“食べる”場面を**  
 かんが  
**考えよう。**

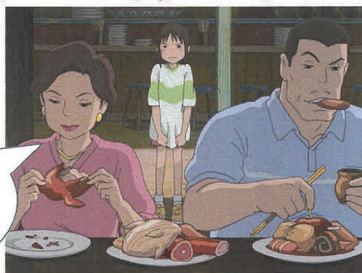
ひつけ  
 日付：8月 2日, 3日, 4日, 5日, 6日 (5日間)  
 じかん よる にほんじかん  
 時間：夜7時から9時まで (日本時間)  
 かいさいほうほう つか  
 開催方法：オンライン (「zoom」を使います！)  
 しべる ちゅうきゅういじょう  
 レベル：中級以上  
 ほしゅうにんずう  
 募集人数：(10~15人)  
 ひつよう  
 必要なもの：パソコン

ないよう  
**【プログラム内容】**



[https://www.excite.co.jp/news/article/Nijimen\\_0000000000060635/?p=3](https://www.excite.co.jp/news/article/Nijimen_0000000000060635/?p=3)

ふた ちが ちが なん  
**2つの違いは何ですか？**



<https://grapee.jp/869055>

せつめいかい  
**【説明会について】**

はじ まえ せつめいかい  
 コースが始まる前に、説明会にきてください。

にちじ  
 ◎日時：7/18、20、25  
 にほんじかん よる  
 (日本時間 夜7:00-8:00)

ぼしよ  
 ◎場所：オンライン (ZOOM)

もう こ ほうほう  
 ◎申し込み方法

google フォームのQRコードを読み取って送ってください。  
 こま れんらくさき  
 困ったことがあったら、この連絡先にメールしてください。

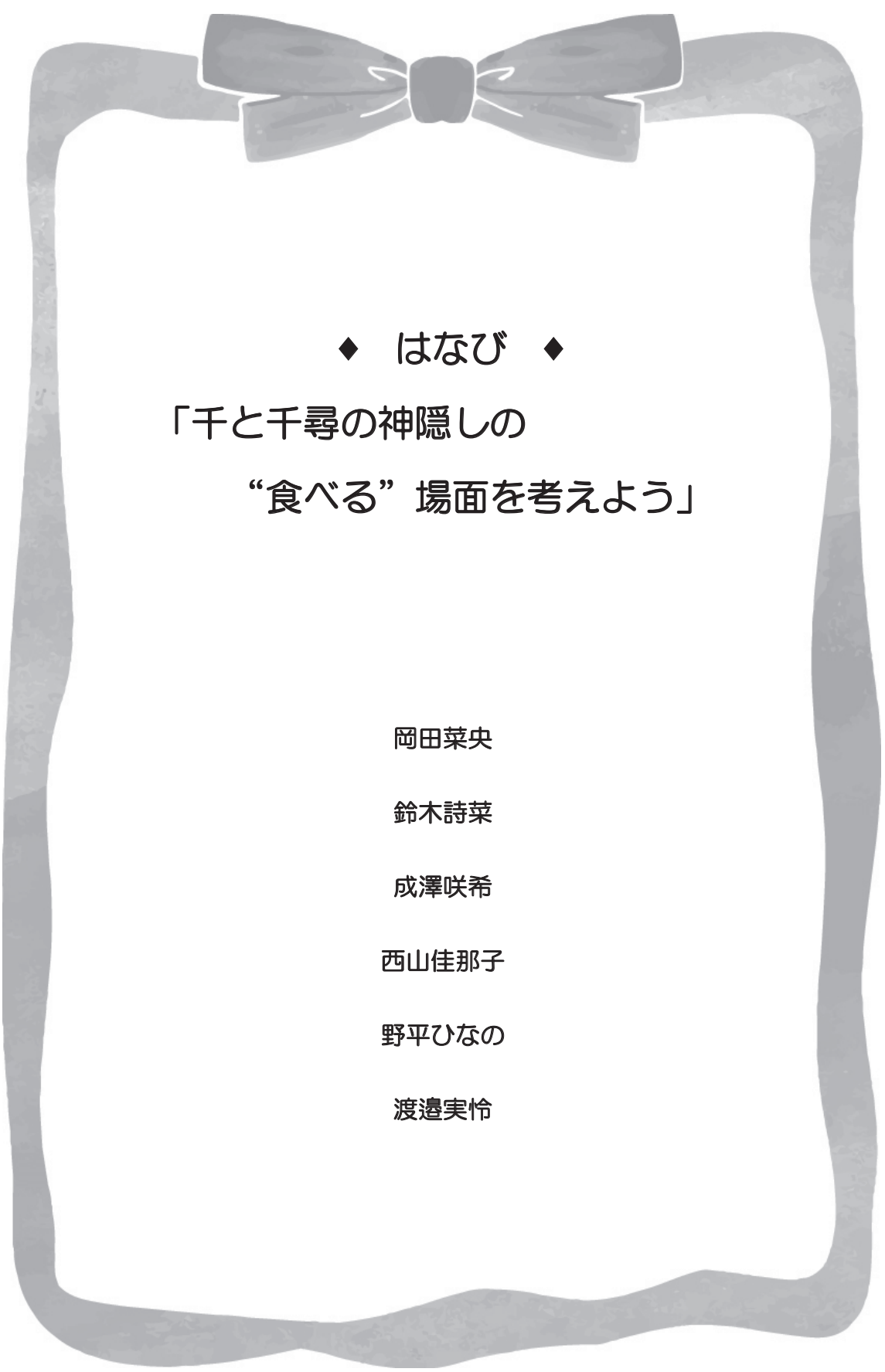
れんらくさき  
 連絡先：[twcu.hanabi@gmail.com](mailto:twcu.hanabi@gmail.com)

うけつけし き  
 ◎受付締め切り：7月17日 (日)

<https://forms.gle/CCXiE56kXzgSAKe99>

ていいん こ さんかしや ちゅうせん き  
 ※定員を超えたら参加者を抽選 (くじ) で決めます。





◆ はなび ◆  
「千と千尋の神隠しの  
“食べる” 場面を考えよう」

岡田菜央

鈴木詩菜

成澤咲希

西山佳那子

野平ひなの

渡邊実怜

## はなびチーム

岡田菜央  
鈴木詩菜  
成澤咲希  
西山佳那子  
野平ひなの  
渡邊実怜

### 1.テーマ

「千と千尋の神隠しの“食べる場面”を考えよう」

### 2.対象レベル

・中級以上(ただし面接で問題ないと判断した場合は中級未満も可)

### 3.目標

- ・「食」に関することばや文化を学ぶ
- ・日本語で考える力を身につける

### 4.学習者の概要

出身国	性別	レベル	所属	出欠
中国	女	初級	桂林電子科技大学	全日
中国	男	中級	日本語学校	全日
台湾	女	中級	東呉大学	全日
台湾	女	中級	東呉大学	全日
台湾	女	上級	東呉大学	4日目欠席

## 5.開催概要

(1) 日時:8/2(火), 8/3(水), 8/4(木), 8/5(金), 8/6(土) 19:00~21:00

(2) 申込期間:7/5(火)~7/31(日)

## 6.実施までのスケジュール

6月	<ul style="list-style-type: none"><li>○チーム分け<ul style="list-style-type: none"><li>・チーム名決定</li><li>・役割決定</li><li>・共有アカウント作成</li></ul></li><li>○コース概要の決定<ul style="list-style-type: none"><li>・開催日、時間、募集人数の決定</li><li>・クラスの到達目標決定</li></ul></li></ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"><li>○ポスター完成、提出</li><li>○参加者募集 [7/5(火)~7/31(日)]<ul style="list-style-type: none"><li>・説明会の実施 [7/18(月), 7/20(水), 7/25(月)]</li><li>・面接の実施 [7/22(金), 7/25(月), 7/28(木), 7/31(日)]</li></ul></li><li>○教案作成、検討</li></ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"><li>○教案完成</li><li>○実習 [8/2(火)~8/6(土)]</li></ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"><li>○実習報告会 [10/15(土) 9:00~12:00 @Zoom]</li><li>○チーム報告書、個人レポート提出 10/28(金) 〆切</li></ul>

## 7.五日間の概要

8月2日(火)	<p>目標: <u>クラスのメンバーの仲を深める</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己紹介</li><li>・「名前順」の導入</li><li>・作品の中で好きなキャラクター/シーンとその理由を発表</li><li>・アイスブレイク:モノ当てゲーム</li><li>・グループワーク</li><li>・プレゼンテーションの見本</li><li>・おしゃべりタイム</li></ul>
8月3日(水)	<p>目標: <u>「食べる」に代わる言葉の使い分けができるようになる</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アイスブレイク:「千と千尋の神隠し」に登場する食べ物クイズ</li><li>・「食べる」に代わる言葉の導入</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・おしゃべりタイム</li> </ul>
8月4日(木)	<p><u>目標:オリジナルのセリフを考える</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク:今日食べたもの</li> <li>・オリジナルのセリフを考える</li> <li>・グループワーク</li> <li>・おしゃべりタイム</li> </ul>
8月5日(金)	<p><u>目標:映画の一人称から日常会話に用いる主語を学習して最終的には自分でどういった一人称が適切なのか考えられるようにする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク:ジブリ飯紹介</li> <li>・一人称の導入</li> <li>・オノマトペ紹介</li> <li>・映画キャラクターに一人称を当てはめるとしたら</li> <li>・グループワーク</li> <li>・おしゃべりタイム</li> </ul>
8月6日(土)	<p><u>目標:プレゼンテーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク:オタク用語クイズ、作品の舞台紹介</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・おしゃべりタイム</li> </ul>

## 8.一日ごとの振り返り

### 【1日目】

目標:クラスのメンバーの仲を深める

時間	活動
19:00~19:05	<p>【1.挨拶(5分)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前の表記のアナウンス</li> <li>・5日間で学ぶ内容の説明</li> <li>・1日の流れの説明</li> </ul>
19:05~19:25	<p>【2.自己紹介(20分)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介の内容を確認(名前、呼んでほしい名前、出身、好きな食べ物)</li> <li>・「名前順」を説明(東京オリンピックの開会式を例に挙げて「あいうえお順」と説明)</li> <li>・「名前順」クイズ(例:西山と野平、どちらが先か?)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「名前順」で学習者と学生が自己紹介</li> <li>※自己紹介後に名前を覚えてもらうため、「〇〇(好きな食べ物)の好きな△△さん」と全員で呼ぶ</li> <li>・Zoomの名前表記を「呼んでほしい名前」に変えるようにアナウンス</li> <li>・『千と千尋の神隠し』に関する質問(好きなキャラクター/シーンとその理由を名前順に発表)</li> </ul>
19:25～20:00	<p><b>【3.アイスブレイク(35分)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モノ当てゲームの紹介(1人の人がモノを用意し、そのモノが何かについて、ほかの人が当てるというゲーム)</li> <li>・モノ当てゲームのルール説明</li> </ul> <p>→出題者(モノを持ってきた人):何を聞かれても「はい」「いいえ」「どちらとも言えません」と答える</p> <p>質問者(モノを当てる人):「それは赤いですか?」のような質問を何問かし、答えが分かったら、「それは〇〇ですか?」のようにモノを当てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例を見せる(お題:ペン)</li> <li>・質疑応答(質問がある人は、マイクをオンにして質問)</li> <li>・ブレイクアウトルーム機能で4グループに分ける</li> <li>・モノ当てゲームをする</li> <li>・全体のルームに戻って感想を聞く</li> </ul>
20:00～20:20	<p><b>【4.グループワーク(20分)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このグループで最終日にプレゼンテーションをするとアナウンス</li> <li>・グループでの自己紹介の内容を確認(①最初に『千と千尋の神隠し』を見たのはいつか、②日本に住んでいるか or 来たことはあるか、③オンラインクラスに参加しようと思った理由)</li> <li>・ブレイクアウトルーム機能で2グループに分ける</li> <li>・1人ずつ自己紹介をし、その後、他の学習者が1つ質問をする(例:好きなキャラクターのどんなところが好きですか?)</li> <li>・全体のルームに戻る</li> </ul>
20:20～20:30	<p><b>【5.プレゼンテーションの見本(10分)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意して聞くようにアナウンス</li> <li>・プレゼンテーションの見本</li> </ul> <p>→千尋の両親の食事シーンを観てもらい、描写の説明、「千尋の両親はどんな気持ちで料理を食べているのか?」、「何を食べているのか?」、「どんな風に食べているのか?」、「この食べ方にはどのような表現が合うか?(ここで「食べる」を導入)」など、二日目以降のグループワークで考察してもらいたいポイントを説明</p>
20:30～20:35	<p><b>【6.終わりのあいさつ(5分)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明日の流れの説明</li> </ul>
20:35～21:00	<p><b>【7.おしゃべりタイム(25分)】</b></p> <p>3～4つのブレイクルームに分かれて自由に会話</p>

### 良かった点

- ・作品に関する質問で、好きなキャラクターと一緒に盛り上がるなど、雰囲気良かった
- ・アイスブレイクのモノ当てゲームで、学習者の笑顔が増え、学習者同士の会話も見られ、クラスの距離が近くなった
- ・「食べる」を説明するのが難しかったが、その言葉を使う場面や感情などをおり混ぜて説明することで理解してくれ、おしゃべりタイムで実際に「食べる」を使ってくれた学習者もいた

### 反省点

- ・自己紹介の「〇〇(好きな食べ物)の好きな△△さん」と全員で呼ぶところで緊張を和らげる予定だったが、呼び方がなかなか浸透せず、あまり盛り上がらなかった。また、リアクションも取りづらそうだったので、こちらから大きくリアクションをすればよかった
- ・学生側も緊張しており、次の活動に気がとられてしまい、リアクションが小さくなったり、表情が硬くなったりしてしまうことが多々あった。学生側がクラスの前にウォーミングアップしておく必要があった
- ・通信状況がよくない学習者がおり、発言が聞き取ずに間があいてしまう場面が何度かあり、このような場合にどうしたら良いのかを事前に考えておくべきだった
- ・中・上級者の話すスピードが早かったり、難しい言葉・表現が出てきたりしたため、理解できていない学習者もいたように感じたが、その際にどのようにフォローしたらよいか分からず、テンポが悪くなってしまった
- ・学習者の詳細な日本語レベルや個性を知る前に、こちらで予めグループを分けてしまったため、グループワークで話しにくく、緊張感のある雰囲気になってしまった。

## 【2日目】

目標:「食べる」に代わる言葉の使い分けができるようになる

時間	活動
19:00～19:05	【1. 挨拶(5分)】 ・名前の表記のアナウンス ・1日の流れの説明
19:05～19:35	【2. アイスブレイク:「千と千尋の神隠し」に登場する食べ物クイズ(30分)】 ・作中に登場する食べ物について、画像を見せながら何を食べているかをクイズ形式で出題 ・学習者を指名し、知っているかどうか、食べたことがあるかを質問

19:35～19:45	<b>【3.「食べる」に代わる言葉の導入(10分)】</b> ・映画の食べる場面をいくつか見せながら、「どのくらい」「どのように」食べているかを聞く ・食べる場面を観せながら、「頬張る」「食らう」「味わう」を導入
19:45～20:05	<b>【4.グループワーク(20分)】</b> ・ブレイクアウトルーム機能で2グループに分ける ・2つの画像を見せ、それぞれ「頬張る」「食らう」「味わう」のどれに当てはまるか、また画像中の食べている人物がどんな気持ちかを考えてもらう
20:05～20:15	<b>【5.発表(15分)】</b> ・グループワークで出た意見をグループごとに発表
20:15～20:30	<b>【6.グループワーク(15分)】</b> ・最終日のプレゼンテーションに向けて準備
20:30～20:35	<b>【7.終わりのあいさつ(5分)】</b> ・明日の流れの説明
20:35～21:00	<b>【8.おしゃべりタイム(25分)】</b> ・自由に話す時間

#### 良かった点

- ・学習者の方が「頬張る」「食らう」「味わう」のニュアンスの違いをしっかりと理解してワークに臨んでくれた
- ・3つの表現について既に知っている人もいたが、実際に「映画のこの場面はどんな風に食べているか？」という問いに取り組むことで、言葉について考えるだけでなく、学習者が持つ、作中のシーンについてのより深い考えを聞くことができた

#### 反省点

- ・学習者が質問を上手く理解できず、その意図から外れた予想外の回答が出た際に、上手く対応できず、進行を滞らせてしまう場面があった。質問自体も抽象的な質問になってしまっていた。
- ・ブレイクアウトルームに分かれた際に、学習者内で発話量に差が出てしまい、上級者対学生の会話になってしまう場面が多くあった
- ・プレゼン準備のグループワークで、自由に考えたことを発表するという形にしたかったがために、発表の内容について詳細な取り決めをしていなかったため、学習者にどのように進めていけばよいかというアドバイスをしにくくなってしまった

#### 【3日目】

## 目標:オリジナルのセリフを考える

時間	活動内容
19:00～19:05	【1.挨拶(5分)】 ・名前の表記のアナウンス ・1日の流れの説明
19:05～19:20	【2.アイスブレイク:テーマ「今日食べたもの」(15分)】 ・テーマ「今日食べたもの」について学習者に質問 ・学習者を指名し、学習者同士で質問をしあう
19:20～19:30	【3.オリジナルのセリフの説明(10分)】 ・千尋がおにぎりを食べる場面を提示し、復習として「頬張る」「食らう」「味わう」のどれが当てはまるかを答えてもらう ・表情や行動から登場人物の心情を読み取り、セリフのない場面にセリフをつける活動を行うことを説明 ・学生同士で見本を行う
19:30～19:45	【4.グループワーク(15分)】 ・ブレイクアウトルーム機能で学習者が2人1組になるように分ける(1人は学生とペアを組む) ・千尋がおにぎりを食べる場面のオリジナルのセリフを考える
19:45～20:00	【5.発表(15分)】 ・グループで考えたオリジナルのセリフを発表 →千尋がおにぎりを食べるシーンを流し、それに合わせて発表
20:00～20:30	【6.グループワーク(30分)】 ・最終日のプレゼンテーションに向けて準備
20:30～20:35	【7.終わりのあいさつ(5分)】 ・明日の流れの説明
20:35～21:00	【8.おしゃべりタイム(25分)】 ・自由に話す時間

### 良かった点

- ・活動内容について、楽しかったという言葉が多くもらうことができた
- ・1つの場面について表情や行動を細かく分析することで、作品への理解を深めることができたと共に、同じ場面でも異なる読み取り方ができることを共有することができた
- ・2日目の学習内容(「味わう」、「食らう」、「頬張る」)を活かすことができた

### 反省点

- ・活動内容に関する説明が長くなってしまった

- ・最後のグループワークの際に、学習者同士の会話を増やそうと学生の発言を減らしてみたが、学習者に負担になってしまった場面があった
- ・学生のリアクションが薄く、盛り上がり欠ける部分があった

#### 【4日目】

目標：一人称を状況に応じて使い分けできるようになる

時間	活動内容
19:00～19:05	【1.挨拶(5分)】 ・名前の表記のアナウンス ・1日の流れの説明
19:05～19:20	【2.アイスブレイク:ジブリ飯紹介(15分)】 ・テーマにある「ジブリ飯」をスライドを用いながら紹介する ・学習者を指名し、どのジブリ飯が食べたいと思ったか理由と共に発表してもらう
19:20～19:40	【3.「食」に関するオノマトペの紹介(20分)】 ・一人称について簡単に説明し、それぞれの一人称に合うと思う「食べる」に関するオノマトペ(「パクパク」、「バリバリ」などの咀嚼音)をクイズ形式で考えてもらう ・なぜそのオノマトペを選んだのかを、理由と共に発表 ・クイズには出さなかった「食べる」に関するオノマトペをいくつか紹介し、プレゼンテーションづくりに活かせるようにする
19:40～19:55	【4.一人称の種類を学ぶ(15分)】 ・一人称の説明 ・よく使用される一人称だけでなく、作中に出てくるものや就活に必要となる一人称も紹介 ・状況に応じて一人称を使い分ける必要があることを説明
19:55～20:05	【5.一人称を考える(グループワーク)(10分)】 ・千と千尋の神隠しに出てくる一人称を使用しないキャラクター(カオナシやオオトリ様など)の一人称を考える ・グループで考えた後全体に戻って発表
20:05～20:30	【6.グループワーク(25分)】 ・最後のプレゼンテーションに向けて準備
20:30～20:35	【7.終わりのあいさつ(5分)】 ・明日の流れの説明

20:30～21:00	【8.おしゃべりタイム(30分)】 ・自由に話す時間
-------------	-------------------------------

#### 良かった点

- ・「ジブリ飯紹介」や「一人称を学ぶ」など、学習者が興味のある「ジブリ」を活用しながら日本の文化に触れてもらう事で新たな興味を生み出すことができた
- ・オノマトペや一人称の紹介など、最終日のプレゼンテーションに役立ちそうな内容を取り入れることができた
- ・3日目までの反省を踏まえた結果、先生からのフィードバックではお褒めの言葉を頂くことができた

#### 反省点

- ・これまでの反省点であがったため改善しようと思っていたが、やはりおしゃべりタイムで話題に困ってしまう場面があった
- ・グループによって進捗に差があったが、上手く埋めることができなかった
- ・よく発言してくれる学習者が欠席で、呼び掛けに対し誰も発言しない状況になってしまうことがあった。その後名指しで答えてもらう様に変更したが、普段その学習者に頼ってしまっている場面が多かったなど実感した。

#### 【5日目】

#### 目標: プレゼンテーションを成功させる

時間	活動
19:00～19:05	【1. 挨拶(5分)】 ・名前の表記のアナウンス ・1日の流れの説明
19:05～19:25	【2. アイスブレイク①: オタク用語クイズ(20分)】 ・「オタク」の説明後にクイズ(全3問) ・クイズの答えと学習者の「推し」を絡めた質問を学習者にする
19:25～19:40	【3. アイスブレイク②: 「千と千尋の神隠し」の舞台紹介(15分)】 ・作品の舞台とされている場所を紹介 ・紹介した場所の中で行ってみたい場所を質問
19:40～20:10	【4. グループワーク(30分)】 ・最後のプレゼンテーションに向けて準備 ・当初20分の予定だったが、10分延長
20:10～20:30	【5. プレゼンテーション(20分)】 ・2グループ各10分ずつ(フィードバック含む)でプレゼンテーション

	・二～五日目のグループワークで考察した内容をスライドを用いて発表
20:30～21:00	【6. おしゃべりタイム(30分)】 ・自由に話す時間 ・最終日はブレイクアウトルームに分かれず、全体で自由に話した

#### 良かった点

- ・静かな時間があるという課題が四日目まで残っていたが、時間が余った場合に話すテーマを事前に考えておいたり、学生が積極的に話を振ったりするなど、それまでの反省を改善して五日目に挑むことができた
- ・明るい雰囲気の中で実習を終えることができた

#### 反省点

- ・静かな時間を少なくすることはできたが、積極的に話に参加してくれる学習者たちに助けられた場面は依然として多かった
- ・用語や舞台を紹介する際、学生側の発話量が必然的に多くなってしまい、静かな時間が多くなってしまった場面があった
- ・プレゼンテーションの準備の時間が足りず、余裕をもって発表を迎えさせることのできなかつたグループがあった

### 8.5日間のまとめ

初めに設定した目標(「食」に関することばや文化を学ぶ、日本語で考える力を身につける)は、達成できたと考える。学習者にとって思い入れのある映画を教材として使用し、それに関連した内容を盛り込むことにより、「食」に関する更なる興味を引き出すことが可能になったと考える。また、「オリジナルのセリフを考えよう」などの活動に対し、「とても楽しかった」というありがたい意見もいただくことができた。

一方で、良かったことばかりではなく、静かな時間が多いなど、反省すべき点も多くあった。積極的に会話に参加してくれる学習者に助けられた場面が多くあり、また学習者同士の会話を促すために学生側が話すのを控えた際、発話量の多い学習者の負担を大きくしてしまうなど、改善策としてとった行動が更に悪い方向に転じてしまったこともあった。しかし、悪い状況のまま実習を終了させないため、反省会で改善策を考え、翌日実行することを繰り返し行ったことで、少しずつ賑やかな時間を増やしていくことができた。

今回、「教える側」としてオンラインクラスを計画したが、改善策を考えたり、学習者の持つバックグラウンドを知ったりと、私たちにとっても学びの多い時間となった。この五日間の実習を通して得た経験や学びを、今後それぞれの道で活かしていきたい。

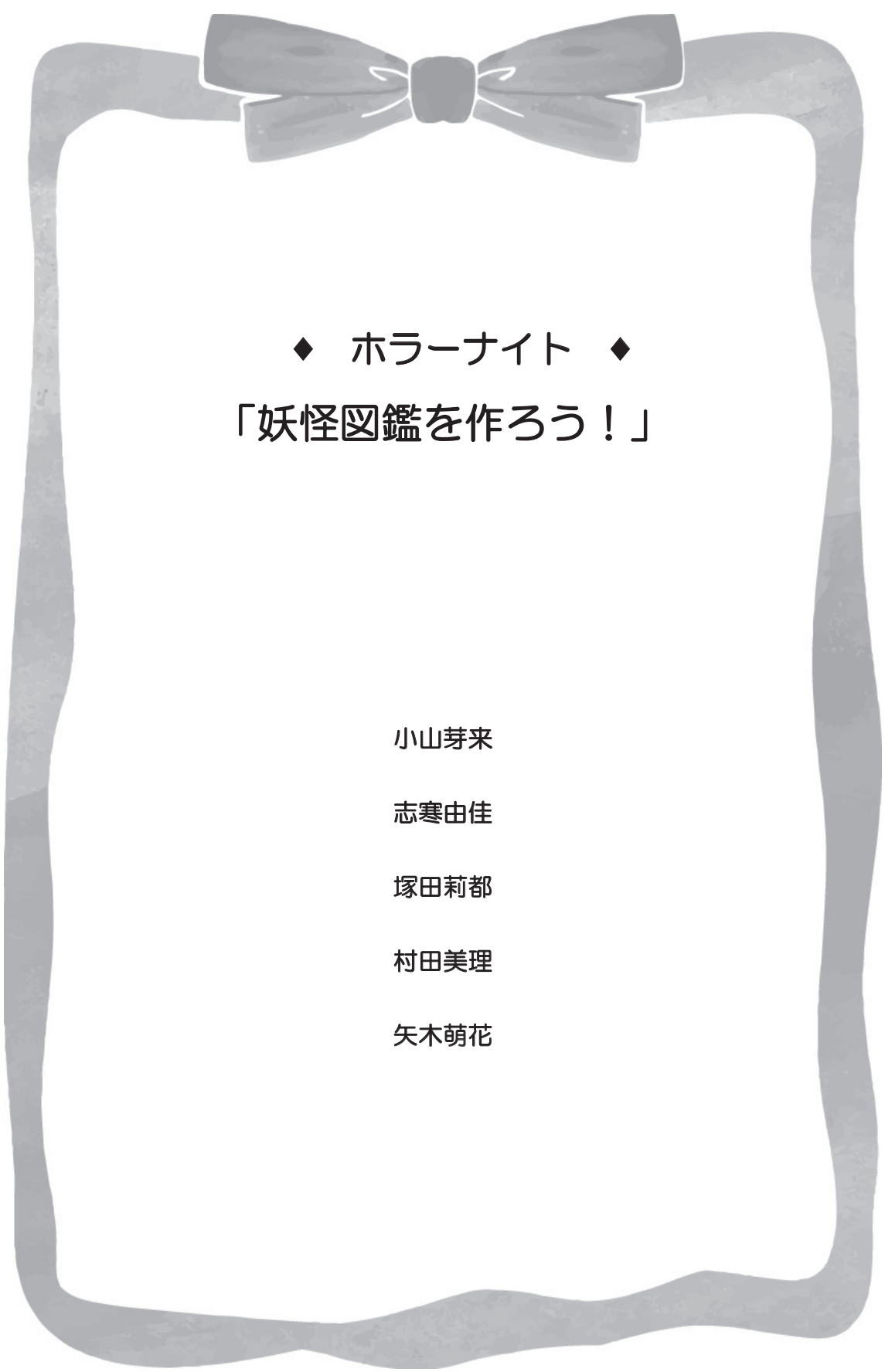
## 9.実習の様子

実際に学習者が作成した最終日のパワーポイントの一例



最終日に撮影した写真





◆ ホラーナイト ◆  
「妖怪図鑑を作ろう！」

小山芽来

志寒由佳

塚田莉都

村田美理

矢木萌花

## ホラーナイトチーム

小山芽来  
志寒由佳  
塚田莉都  
村田美理  
矢木萌花

### 1. テーマ

「妖怪図鑑をつくろう！」

### 2. 目標

- ・妖怪の名前や行動、姿などを説明出来るようになる。日本の色や模様などを学ぶことを通して、日本の文化に更に詳しくなることができる。
- ・日本人が連想する音(オノマトペ)や、実際に使っているスラング等の日本語学校では習わない日本の文化を知ることができる。

### 3. 学習者の概要

募集時の想定：中級

実際の参加者：初級～上級

参加人数：13人（男性7人、女性6人）

出身国	性別	レベル	所属
イタリア	女性	上級	
台湾	男性	中級	
台湾	男性	上級	
台湾	男性	中級	
インドネシア	女性	中級	
タイ	女性	上級	
中国	男性	上級	イーストウエスト日本語学校
中国	女性	中級	イーストウエスト日本語学校
中国	男性	中級	
中国	男性	上級	
中国	男性	上級	
中国	女性	上級	
ニュージーランド	女性	初級	

#### 4. 開催概要

日時 8/2(火), 8/3(水), 8/4(木), 8/5(金), 8/6(土) 18:30~20:00

zoomにて開催

zoomの部屋は18:00に開け、18:00~18:30は自由参加の会話時間

申込期間 7/12(火)~7/30(土)

※定員が集まり次第受付終了

#### 5. スケジュール

<b>6月</b>	6/1 実習班決定 ・テーマ決め 6/8~ ポスター制作 役割決定 コース概要の決定 ・開催日、時間、コース内容、募集人数等 説明会日程の決定 <div style="text-align: right;">※毎授業で相談、決定</div>
<b>7月</b>	7/1 グーグルアカウント作成 ポスター案締切 *7/5 修正ポスター締切、印刷 *7/6 発送 7/8~ 教案作成 説明会準備 ・資料作成、メール対応等 7/12 説明会開始 *22, 23, 27, 30日実施 参加者募集受付開始 7/30 申し込み締め切り
<b>8月</b>	8/2~6 オンライン実習 (5日間) *教案修正、資料作成、メール対応等 オンライン反省会 8/7 妖怪図鑑配布 8/12 実習記録、授業録画提出締切
<b>10月</b>	10/15 実習報告会 10/28 チーム報告書、個人レポート等提出締切

## 6. 5日間の概要

1日目	「妖怪について知ろう」 ・日本の「怖い」を学ぶ。 ・アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」をみんなで見る。
2日目	「妖怪に名前を付けよう」 ・いろいろな妖怪の名前について知る。 ・日本人が「怖い」と思う音について学ぶ。
3日目	「妖怪の絵を描こう」 ・妖怪の姿や色を知る。 ・日本の伝統的な模様や色について学ぶ。
4日目	「妖怪図鑑を完成させよう①」 ・学んだことを活かしてオリジナル妖怪を完成させる。
5日目	「妖怪図鑑を完成させよう②」 ・チームで作ったオリジナル妖怪を発表して、図鑑にまとめる。


## 7. 授業内容の詳細

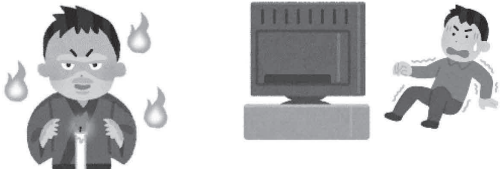

### 【1日目】

#### (1) 目標

- ・日本の「怖い」とは何かを理解してもらう。（夏によく怪談を話す習慣があるなど）
- ・妖怪とはどのようなものかを学習する。

#### (2) 教案

流れ	活動	活動詳細
18:00～ 18:30	おしゃべりタイム	・参加者との雑談 ・自由参加。
18:30～ 18:40	自己紹介	・事前用意した自己紹介カード ・名前、あだ名、出身国等
18:40～ 19:10	怖いものについてのワーク	<p>(1)私たちが「怖い」もの ・フランケンシュタイン、キョンシー</p> <p>(2)学習者が「怖い」もの ・事前用意してもらった怖いもの等 ・ブレイクアウトルームでの活動後、全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>あなたが「怖い」と思ったものは？</p>  <p><b>怖いものは文化の違いなどによつて、人それぞれで違う！</b></p> </div>

<p>19:10～ 19:20</p>	<p>導入のためのワーク ①</p>	<p>日本の夏と言えば？怪談について知って涼もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏に何をするか聞く。</li> <li>・日本の「怪談」の文化について説明する。</li> </ul> <div data-bbox="703 349 1273 658" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日本の夏の文化には・・・</p> <p>"怪談"をする      "怖いものを見る"</p>  </div>
<p>19:20～ 19:30</p>	<p>導入のためのワーク ②</p>	<p>実際に日本の怖い文化に触れてみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」のオープニング映像を見る。</li> </ul>
<p>19:30～ 19:40</p>	<p>妖怪の定義、説明</p>	<p>(1)「ゲゲゲの鬼太郎」に登場した妖怪を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・猫娘、目玉おやじ、ねずみ男</li> </ul> <p>(2)妖怪の定義説明</p> <p>昔の人は、災害や病気のような「不思議」な出来事を妖怪の仕業として理解していた。</p> <div data-bbox="711 958 1289 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>よっかい 妖怪</p> <p>すがた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな姿</li> </ul> <p>にほん      むかし      よっかい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本には、昔から妖怪がいる</li> </ul> </div>
<p>19:40～ 20:00</p>	<p>今後やること 最終目標 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の授業内容の確認。</li> <li>・妖怪のモチーフの紹介。</li> </ul> <p><b>感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の感想を漢字1文字で表す。</li> <li>・チャットで共有する</li> </ul>

(3) 良かった点

- ・司会の人と話に詰まった際に、他の東女生がサポートにまわってくれた。
- ・学習者の中で、話し出す人がいない時に、積極的に会話を回すことができた。

(4) 反省点



- ・ブレイクアウトルームを作るなどの作業に目がいってしまい、学習者の様子を見る余裕がなかった。
- ・時間が予定していたものより早く終わってしまった。  
→その都度、対処が必要だと感じた。



【2日目】

(1) 目標

- ・妖怪に名前を付けよう。
- ・「怖い」音について理解し、それを活かして、妖怪に名前を付けることができる。

(2) 教案

流れ	活動	活動詳細
18:00～ 18:30	おしゃべりタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者との雑談。</li> <li>・自由参加。</li> </ul>
18:30～ 18:35	挨拶 復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始の挨拶、雑談</li> <li>・ブレイクアウトで前回の授業を振り返った後、全体で発言してもらう。</li> <li>・今日の授業の説明、目標の共有</li> </ul>
18:35～ 18:50	怖い音	<p><b>(1)日本人が「怖い」と感じる音について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひゅーどろ」「ひゅー」の音声を流して、それぞれの音声に対する印象を聞く。</li> <li>・これらの音は、日本ではおばけが登場するときの「不気味」な音であることについて説明。</li> <li>・「不気味」という言葉について解説。</li> </ul> <p><b>(2)学習者が「怖い」と感じる音について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひゅーどろ」「ひゅー」に対する意見交換。</li> <li>・「怖い」と感じる音についての話し合い。</li> </ul> <p><b>(3)「怖い」音のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビックリする音と不気味な音。</li> </ul> <div data-bbox="699 1234 1273 1556" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>濁点による音の違い</p> <p>「゜」あり・・・大きい音や強い音 ⇒びっくりする怖さ </p> <p>「゜」なし・・・小さい音や弱い音 ⇒何がいるか分からない怖さ =不気味 </p> </div>
18:50～ 19:00	大きい音と小さい音	<p><b>「ドンドン」と「トントン」の違いについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ドンドン」と「トントン」の音声を流して、それぞれの音声に対する印象を聞く。</li> <li>・濁点について説明。</li> <li>・濁点による音の大きさ、強さの違いについて説明。</li> <li>・大きい音と小さい音による怖さの違いについて考える。</li> </ul>

<p>19:00～ 19:20</p>	<p>妖怪と音</p>	<p><b>(1)化け草履</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サッサッサッ」の音声を流して、印象を聞く。</li> <li>・化け草履についての説明。</li> <li>・「化け草履」の名前の解説。</li> </ul> <div data-bbox="699 398 1273 707" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p> <small>ば</small> <small>モウリ</small> <small>ば</small> <small>イウリ</small>  <b>化ける+草履=化け草履</b> </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「化ける」・・・ちがうものになること。</li> <li>・「草履」・・・昔の日本人のくつ。</li> </ul>   <p> <small>ばく</small>          僕のこと  <small>たいせつ</small>          大切に...       </p> </div> <p><b>(2)傘ばけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妖怪の名前を予想してもらおう。</li> <li>・「傘ばけ」の名前の解説。</li> <li>・傘ばけの立てる「カランコロン」という音を流して、印象を聞く。</li> </ul> <p><b>(3)妖怪のモチーフについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物、自然、生き物など沢山のモチーフによる妖怪が存在することを説明する。</li> <li>・海坊主、やまびこ</li> </ul>
<p>19:20～ 19:30</p>	<p>妖怪「音」クイズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妖怪が出す音から、どんな妖怪なのか考えて、その妖怪の名前を当てる三択クイズを行う。</li> </ul>
<p>19:30～ 19:50</p>	<p>妖怪に名前を付ける</p>	<p><b>グループワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妖怪のモチーフを決め、名前を考える。</li> <li>・妖怪の鳴き声や妖怪が出す音を考える。</li> </ul>
<p>19:50～ 20:00</p>	<p>まとめ、挨拶</p>	<p><b>感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の感想を漢字1文字で表す。</li> <li>・チャットで共有する。</li> <li>・明日の予告。</li> </ul>

(3) 良かった点

- ・日本語初級の方も学生がサポートすれば十分作業を楽しんでくれていた。
- ・音の話と妖怪に繋がった時の学習者の反応が良く、興味を引き付けることができたと思う。
- ・説明した「音」についての質問をブレイクアウトルームでしてくれたので、そこで疑問を解消できたことはもちろん、学習者の理解度についても把握することができた。かなりよく理解してくれていたことがわかって安心した。

(4) 反省点

- ・「ひゅーどろ」など怖い音として紹介したが「面白い」と感じる方が多く、次の話題への展開への話のつなぎ方が難しい場面があった。




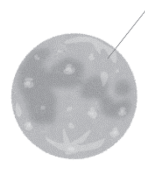
- ・説明が多く、参加者の発言する回数よりも学生の話の方が多くなってしまい、一方通行の授業を展開してしまった。
- ・pptの音が聞こえない問題が途中で発生した。端末が重くなることを避けるためにもなるべく使用は控えたい。
- ・妖怪に名前を付けるのが難しいと感じる学習者が複数いたようだったので、妖怪の名前をもっと多く紹介すればよかったかもしれない。
- ・授業の最後に漢字で一言その日の感想を答えるようにしていたが、漢字が分かる人と分からない人の差が生じてしまった。

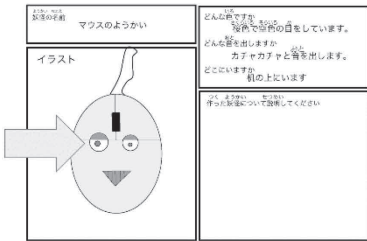
### 【3日目】

#### (1) 目標

- ・日本の「色」を知り、自分の妖怪に合う和色を選ぶ
- ・オリジナル妖怪の絵をかく

#### (2) 教案

流れ	活動	活動詳細
18:00～ 18:30	おしゃべりタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者との雑談。</li> <li>・自由参加。</li> </ul>
18:30～ 18:32	挨拶 復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始の挨拶、雑談</li> <li>・ブレイクアウトで前回の授業を振り返った後、全体で発言してもらう。</li> <li>・今日の授業の説明、目標の共有</li> </ul>
18:32 ～18:55	国ごとに異なる色彩 感覚について 和色の紹介	<p><b>(1)色の見方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽と月をどんな色で表すか話し合った後、全体で共有する。</li> <li>・国や人ごとに色の見方が違うことがわかる。</li> </ul> <div data-bbox="699 1339 1273 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">いろ　み　かた　ちが</p> <p style="text-align: center;"><b>色の見え方の違い</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>たいよう 太陽</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>きいろ 黄色</p>  </div> </div> </div> <div data-bbox="699 1668 1273 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>つき 月</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>しろいろ 白色</p>  </div> </div> </div>

		<b>(2)日本独特の色の見方について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼太郎のちゃんちゃんこの色から、和色について考える。</li> <li>・山吹色、向日葵色、蒲公英色等、和色の紹介。</li> </ul>		
18:55 ～19:05	日本の色の捉え方を知る。	<b>日本人の色彩のとらえ方について</b>		
19:05～ 19:55	妖怪図鑑のイラスト作成	<b>グループワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナル妖怪のイラストを描く。</li> <li>・それぞれの妖怪にどのような色をつけるのか学習者同士で話し合う。</li> <li>・一番近い和色名をイラストの近くに書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">ようかい <span style="margin-left: 100px;">かんせい</span> 妖怪のイラストを完成させましょう</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <small>ようかい 妖怪の名称</small> マウスのようかい  イラスト </td> <td style="width: 70%; padding: 5px;"> <small>どんな色ですか？ 和色で妖怪の目をしていきます。</small> どんな髪を伸ばしますか？ カブカブと髪を出します。 <small>どこにいますか？ 肩の上にあります</small>   <small>はい、それでは、お名前を ずった順番について発表してください</small> </td> </tr> </table>  </div>	<small>ようかい 妖怪の名称</small> マウスのようかい  イラスト	<small>どんな色ですか？ 和色で妖怪の目をしていきます。</small> どんな髪を伸ばしますか？ カブカブと髪を出します。 <small>どこにいますか？ 肩の上にあります</small>  <small>はい、それでは、お名前を ずった順番について発表してください</small>
<small>ようかい 妖怪の名称</small> マウスのようかい  イラスト	<small>どんな色ですか？ 和色で妖怪の目をしていきます。</small> どんな髪を伸ばしますか？ カブカブと髪を出します。 <small>どこにいますか？ 肩の上にあります</small>  <small>はい、それでは、お名前を ずった順番について発表してください</small>			
19:55～ 20:00	まとめ 挨拶	<b>感想</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の感想を漢字1文字で表す。</li> <li>・チャットで共有する。</li> <li>・明日の予告。</li> </ul>		

### (3) 良かった点

- ・虹は何色あるか、太陽は何色かなど、各国の色彩感覚のとらえ方の違いを学べた。
- ・本格的な図鑑作成開始で楽しんでもらえた。
- ・急遽担当の者が参加できなくなり司会を交代したが、教案がしっかりできており他の学生の協力もあったため無事授業を進められた。

### (4) 反省点

- ・作業がすぐおわるグループと時間ギリギリまで作業しているグループがあり、どちらに時間を合わせたらいいのかわからなかった。  
→予定より10分ほど早く切り上げたがそれでも作業が早く終わったグループを担当していた学生からは「会話が大変だった」と報告があった
- ・和色を説明しても反応が薄く、アウトプットもすぐ妖怪の色をつける時に少しか使った程度だった。またブレイクアウトルームで今日の授業について話すときも「好きな色はありましたか？」以外に話題の出しようがなかったのであまり授業の題材としてはふさわしくなかったのかなと感じた。

## 【4日目】

### (1) 目標

- ・教科書に載っていない若者言葉を学ぶ。
- ・説明文で使いやすい文法を学び、それを活かしてオリジナル妖怪の説明文を書く。

### (2) 教案

流れ	活動内容	活動詳細
18:00～ 18:30	おしゃべりタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者との雑談。</li> <li>・自由参加。</li> </ul>
18:30 ～18:38	挨拶 昨日の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始の挨拶、雑談</li> <li>・ブレイクアウトで前回の授業を振り返った後、全体で発言してもらう。</li> <li>・今日の授業の説明、目標の共有</li> </ul>
18:38 ～18:48	文法1	<p>「〇〇で知られている」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妖怪とその特徴をpptに示し、「(妖怪)は(特徴)で知られている」の文型で発言してもらう。</li> <li>・ヤマタノオロチ、鬼、座敷童</li> <li>・同じ文型を用いて、出身国を紹介してもらう。</li> <li>・イタリア、タイ、中国、ニュージーランド、インドネシア</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>文型1</p> <p>〇〇 は △△ で <sup>し</sup>知られている</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>〇〇 は △△ で <sup>ゆうめい</sup>有名だ</p> </div>
18:48～ 18:53	文法2	<p>「〇〇すると～/〇〇しないと～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動販売機の例を用いた導入</li> <li>・学校の例を用いた導入</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>文型2</p> <p>〇〇すると、 ××</p> <p>△△しないと、 ××</p> </div>
18:53～ 19:03	単語	<p><b>スラング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イケてる、イケメン</li> <li>・ダサイ</li> <li>・ピカピカ</li> <li>・ボロボロ</li> <li>・超、めっちゃ、すごい、マジで</li> </ul>

19:03～ 19:10	実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレイクアウトルームで、スラングを実際に使って自分の好きなものを紹介する。</li> <li>・Tはそれぞれのブレイクアウトルームでpptの文法、単語まとめのページを共有表示で画面に映す。</li> </ul>
19:10～ 19:18	見本紹介	<b>(1)学んだ文法を使って、妖怪を紹介する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一反木綿、雪女</li> </ul> <b>(2)妖怪図鑑に載せる紹介文作成の説明</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマットの提示</li> </ul>
19:18～ 19:48	妖怪図鑑の紹介文作成	<b>グループに別れて妖怪の紹介文を作る。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妖怪図鑑に載せる紹介文を作成する。</li> </ul>
19:48～ 19:50	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文をメールで送ってもらう。</li> <li>・終わらなかった学習者は宿題とする。</li> </ul>
19:50～ 20:00	まとめ 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の感想を漢字1文字か一言で表す。</li> <li>・チャットで共有する。</li> <li>・明日の予告</li> </ul>

### (3) 良かった点

- ・教科書に載っていない単語(スラング)を知れたことに対する反応が良かった。
- ・ブレイクアウトルームで好きなものを話すときや妖怪の紹介文を作っているとき会話量が多かった。

### (4) 反省点

- ・テンポを重視しすぎて学習者の発音練習で聞き取れないことがあって流してしまった。
- ・上級の方は説明文をすぐ作り終わってしまったので少し時間を持て余しぎみだった。


## 【5日目】

### (1) 目標

- ・作成した妖怪を皆の前で発表できるようにする。
- ・他の人の発表を聞き、感想を言う。

### (2) 教案

流れ	活動内容	活動詳細
18:00～ 18:30	おしゃべりタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者との雑談。</li> <li>・自由参加。</li> </ul>
18:30～ 18:38	挨拶 昨日の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始の挨拶、雑談</li> <li>・ブレイクアウトで前回の授業を振り返った後、全体で発言してもらう。</li> <li>・今日の授業の説明、目標の共有</li> </ul>
18:38～ 18:48	妖怪図鑑作成	<b>グループワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妖怪図鑑の作成、仕上げ。</li> <li>・終わっているチームは他のワークを行う。</li> </ul>
18:48～ 18:49	発表練習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の例を示す。</li> </ul>

18:49～ 18:54	発表練習	<p><b>グループワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドの内容に沿って、発表練習を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>この妖怪の名前は☆☆です。</p> <p>☆☆は○○色です。</p> <p>○○という音を出し、○○にいます。</p> <p>☆☆は○○で知られています。</p> <p>見た目は○○です。</p> </div>
19:00～ 19:41	妖怪発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に伝えた順番で発表を行う。</li> <li>・自分の前の人の発表が終わったら、感想を伝える。</li> <li>・発表終了後、ブレイクアウトルームに分かれ、それぞれの妖怪について、感想を伝えたり、質問をしたりする。</li> </ul>
19:41～ 19:45	妖怪図鑑の完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、妖怪図鑑のPDFをメールで配布する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>ようかいずかんかんせい</p> <p><b>妖怪図鑑完成！</b></p>  <p>※この後メールでpdfを送ります。</p> </div>
19:45～ 19:50	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの授業の感想を漢字1文字か一言で表す。</li> <li>・チャットで共有する。</li> </ul>
19:50～ 20:00	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加のお礼</li> <li>・「妖怪展」のお知らせ</li> </ul>

### (3) 良かった点

- ・日本語が苦手な人を学習者同士で支え合いながら学習していて、暖かいクラスになった。
- ・全員がオリジナリティに溢れる妖怪を、今までに学習した文法などを用いて発表していた。

### (4) 反省点

- ・授業の時間も十分で、学習者の方の思い入れのある妖怪を存分に発表してもらいたかったため、発表への制限時間を定めなかったが、学習者によって時間への差が出てしまった。
- ・感想を学習者側から1名指名するという流れで行ったが、もう少しフリーに感想を言ってもらっても良かったかもしれない。

## 8. まとめ

・初めの頃（特に1日目）、想定していなかったトラブルがいくつか起きたとき、思うように対処することができない場面が多かった。オンライン上の授業ということもあり、やはり機材におけるトラブルも多かった。しかし、日数を重ねていくうちに前回の授業で起こったトラブルを復習しながら解決していくことができた。また学習者たちの反応を見る余裕も段々と生まれて、自分なりの交流ができたと思う。ただ、今回5日間無事終えることができたのは、やはり他の東女生たちの助けがあったからであり、もしこれが自分ひとりで行っていたとなると、対処しきれない場面もあったと感じる。ひとりで立派な授業を完成させるには、より多くの経験を積むことが大切であり、余計な準備であると思うことでも念入りに準備することがいかに大切であるかを今回の実習で実感した。

・5日間の実習を通して、自分達の成長と学習者の方々の成長の両方を感じることが出来た良い機会だった。最初の1.2日目は自分たちのことで精一杯で学習者の方々に目を向けられていない部分や至らない点が多々あった。しかし、その反省を活かし、その後は学習者の方々に振る機会を多くしたり、学習者の方々の反応を見たりしながら進めることが出来た。また、ブレイクアウトルーム内では学習者同士が助け合って日本語を教えている姿も見受けられた。最終日で学習者の方々から「終わって欲しくない」という言葉を掛けられたこともとても印象的だった。今回のクラスがキッカケで更に日本語について興味を持ってもらえると嬉しい。

・授業は教える側もたくさん学ぶ機会であるのだとひしひしと感じた五日間だった。授業が終わると毎回学生同士で改善点や注意点を共有しあい、さらに先生からもアドバイスを頂いた。もっとコミュニケーションを活発にしたいという意見が出ればブレイクアウトルームでの話し合いの時間を増やしたり、レベルに追い付いていない学習者が見つければ学生で注意深く見たり他のレベルが高い学習者と同じグループに組み合わせたりと授業前に何度も教案を書き直した。学習者の反応を踏まえ更に授業がよくなるように工夫を考えている時が一番自分の成長を感じることができた。またこの成長も、情報を逐一報告してくれ、授業の工夫と一緒に考えてくれた仲間がいたからこそできたことである。先生から実習前に聞いていた「学生同士の連携が大事」というアドバイスを、身をもって学ぶことができた。

・5日間のオンライン実習をゼロからすべて作り上げなければいけないということで、実習初日の直前まで不安を感じていたが、始まってしまえば、とても楽しくあっという間の5日間であった。実習初日や2日目は授業を進めることで必死だったが、徐々に他の学生のサポートに手が回るようになっていたり、学習者の様子に気を配ることができるようになったりと、自分以外のことを考えられるようになっていった。これはグループのメンバーとの情報共有がよくできていた結果だと思っており、ワークの進捗状況や学習者の日本語レベルなどを実習後の反省会で話し合っていたことにより、次の日の実習で気にすべきことを全員が明確化できたことが、視野を広げることに繋がっていった。チームで活動する意義を実感した。

・初日などはまだ自分たちのことで手一杯になってしまったり、学習者へ目が行き届いてなかったりした。しかし、日数を経るにつれ、徐々にではあるが、学習者の方と視線を合わせて授業を進めていけたと思う。また、日本語が苦手な方には、学習者の方同士で支え合う様子なども見られ、学習者の方たちも仲が深まっていく様子も見られた。最後の授業では、クラスが終わるのが寂しいといった声も聞かれ、暖かい雰囲気を作れたのではないかと思う。参加者の方は妖怪や日本の文化に興味津々で、こちらも驚くような知識を持っている方もいた。そんな中、クラスを行うのは良い緊張感があった。そのため、どれくらい授業の内容に満足してもらえているか不安だったため、ブレイクアウトルームに分かれた際などに、「先ほどのスラングは知っていましたか？」などの質問をした。すると、「初めて知る言葉でした。」などの意見

を聞くことができた。今回の5日間のクラスを、日本や妖怪についてよりよく知るためのきっかけになったらいいなと思う。

9. 配布資料等

- ・毎回の授業後に、授業の復習pptを作成し、メールで配布。
- ・3日目「妖怪の絵をかこう」  
日本の伝統色 和色大辞典(<https://www.colordic.org/w>)のスクリーンショットをpdf化して配布。
- ・実習終了後「妖怪図鑑」配布



The image shows the cover of a book titled "妖怪図鑑" (Yokai Encyclopedia). The cover features a large, stylized illustration of a white, blob-like creature with two eyes and a mouth, holding a yellow banner that says "妖怪図鑑". Below the banner are several smaller, colorful illustrations of various yokai characters. The text on the cover includes "妖怪" (Yokai) in large characters, "2022.8/2~8/6" below it, "Vol. 01" in large characters, "2022 Summer" below it, and "妖怪図鑑を作ろう!" (Let's make a Yokai Encyclopedia!) in the top right. Below the title, it says "ご参加いただき、ありがとうございました!" (Thank you for your participation!). A table of contents is listed on the right side of the cover, and at the bottom right, it says "東京女子大学オンライン日本語クラス ホラーナイトチーム" (Tokyo Women's University Online Japanese Class Horror Night Team).

妖怪  
2022.8/2~8/6

妖怪図鑑

Vol. 01  
2022 Summer

妖怪図鑑を作ろう！  
ご参加いただき、  
ありがとうございました！

目次(もくじ)

1. コロナキッド虫 (ころなきつとむし)
2. マス君 (ますくん)
3. 夢泥棒 (ゆめどろぼう)
4. ながボウス (ながぼうず)
5. カップ化け (かっぷばけ)
6. 自動鉛筆 (じどうえんぴつ)
7. 楽と罰スマホ (らくとばつすまほ)
8. ガチャボウス (がちゃぼうず)
9. カゲラ (かげら)
10. フワフワまくら (ふわふわまくら)
11. 水怪 (すいかい)
12. ほねちゃん
13. だれいけ (だればけ)

東京女子大学オンライン日本語クラス  
ホラーナイトチーム

◆実習報告◆

学外実習  
(フィールド実践 B・C)



## ●2022 年度 学外実習受け入れ機関●

### 実習受入先日本語教育機関

- ・株式会社 **インターカルト日本語学校** 東京都台東区台東 2-20-9
- ・株式会社ケー・エイ・アイ **カイ日本語スクール** 東京都新宿区大久保 1-15-18 3階
- ・学校法人 江副学園 **新宿日本語学校** 東京都新宿区高田馬場 2-9-7
- ・財団法人ラボ国際交流センター **ラボ日本語教育研修所** 東京都新宿区西新宿 6-26-11 (2022 年 7 月現在)

### 実習期間

受入れ日本語教育機関	実習期間
インターカルト日本語学校	《短期》 9/5~9/16
カイ日本語スクール	《長期》 7/11~7/29
新宿日本語学校	《長期》 7/5~8/8
ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所	《長期》 7/4~7/29





◆ インターカルト日本語学校 ◆

佐々木美月

爲国結莉恵

長岡彩乃

能町知芳

山崎鈴花

### 【インターカルト日本語学校について】

インターカルト日本語学校は 1997年に設立され、JR御徒町駅から徒歩10分のところに位置する学校である。「Cross Cultural Communication」を設立理念、「日本語を学びたい、すべての人のために」をモットーとし、「使える」日本語が身に付けられる学校、学習者が自分の表現したいことが表現でき、前向きに参加できる授業を目指している。

### 【実習内容】

実習期間は2022年9月5日(月)から2022年9月16日(金)でうち10日間参加した。具体的な内容としては大きく以下の5つの項目に分けられる。

1. ホームクラス、漢字クラスの授業見学
2. 目的別授業の参加・見学
3. インターカルト日本語学校専任講師によるレクチャー
4. スピーチコンテストの見学
5. ホームクラスでの教壇実習

### 【ホームクラス】

学習者が文法表現などの総合的な日本語の基礎を学ぶホームクラスは日本語のレベル別に分かれており、初級がJ1、J2、中級がJ3、J4、で上級がJ5からJ9という構成になっている。また、一つのレベルの中でも学習者が多くクラスが複数になる場合はクラス分けテストの結果と学習者の母国での日本語学習経験の有無などからa-eの順でクラスを分けていた(図1参照)。

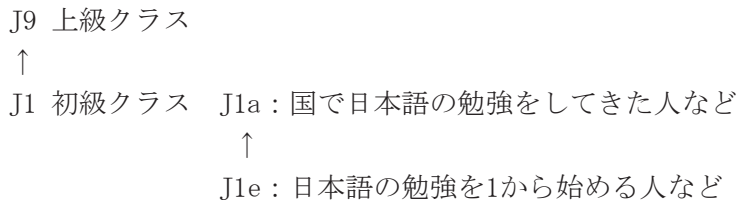
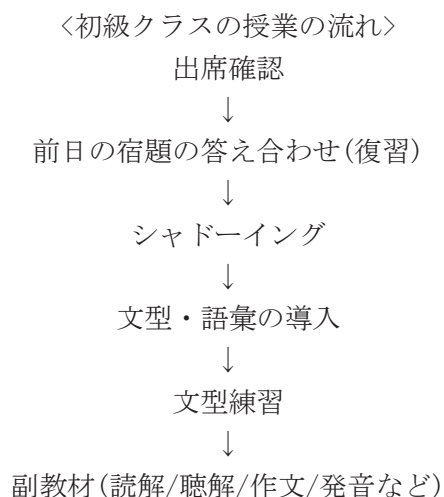


図1 レベル別ホームクラスについて

今回の実習ではJ1の3クラス、J2の2クラスにそれぞれ1人ずつ毎日参加し、授業を見学した。また、1日のみ全員でJ4aクラスを見学した。なお、実習の初日にはA4一枚で自己紹介ポスターを作成し、それぞれが担当したホームクラスに掲示してもらった。教科書としてはJ1、J2レベルでは『みんなの日本語』を使用し、J4レベルでは『中級へ行こう』を使用していた。また、教科書とともに適宜先生が作成したプリントやパワーポイントを使用し授業が行われていた。ホームクラスの授業は1日で50分×3コマあり、先生やその日の授業内容により前後するが、J1、J2の授業の流れは基本的に以下の通りであった。



初級クラスで行っていたシャドーイングは、インターカルト日本語学校の先生たちが出演するオリジナルビデオ教材と会話内容を文字起こししたプリントを使用し行っていた。また、中級のJ4aクラスでは曜日によってホームクラスのコマ数が異なるが、初めに教科書を使った学習を行い、その後、4技能のいずれかを鍛える内容の授業を日替わりで行っていた。私たちが参加した日は「話す」授業で「好きな場所を紹介する」という目標で場所に関する語彙の確認をした後、プリントに沿って自分の日本や母国における好きな場所についてペアで話し合う活動を行った。

レベルの異なるクラスを見学し気付いた最も大きな違いは言語コントロールについてである。初級では学習した文型とコミュニケーションに最低限必要な表現を組み合わせ教師側が意識的にコントロールするのに対し、中級の学習者に対しては現実に近いコミュニケーションを重視するため、教師側は自然な表現を用いるようにしていた。ここから学習者のレベルに合わせた話し方を行う必要があると学んだ。

また、各ホームクラスの特徴については以下の通りである。

#### ○J1aについて

漢字圏、非漢字圏が半数ずつのクラスだった。

年齢も20代から30代と幅広く、学習目的も大学進学、就業など様々であった。クラスメイト同士でシェアハウスをするなどプライベートでも仲が良いようだった。授業中もお互いの意見を自由に言い合ったり、笑い合ったりととても明るく賑やかなクラスだった。同じ母国の友人同士で勉強を教え合い、授業後には必ず質問をしにいく様子が見られ、テストの点も多くの人が満点であるほど、勉強熱心なクラスでもあった。クラス内でレベル差はあるものの、教え合いながら高め合っていると感じた。

#### ○J1dについて

漢字圏の学習者が5人、非漢字圏の学習者が14人と非漢字圏の学習者の方が多いクラスだった。国籍はスウェーデン、アメリカ、ドイツ、チリ、メキシコ、スペイン、中国、台湾と様々であった。積極的に発言する学習者とあまり積極的でない学習者の差が見られたが、グループワークの際はほとんどの学習者が積極的に参加していた。また、学習者同士の仲がとても良く、休み時間

は楽しそうに話している様子が見られた。休み時間やグループワークの際に分からない部分を学習者同士で確認し、学習内容の理解を深めていた。

#### ○J1eについて

漢字圏の学習者と非漢字圏の学習者が混在しているクラスだった。国籍は、アメリカ、カナダ、ノルウェー、イタリア、ドイツ、中国、台湾など様々で欧米出身者が7割を占めていた。年齢も様々で10代から40代まで様々な年齢の学習者が万遍なく在籍していた。このクラスは人によってレベルにかなり差があるように感じた。先生とスムーズにやり取りをしている学生もいれば、英語で訳さないと何をやっているか分からない学生もいた。クラスの雰囲気は、静かで真面目な印象だった。分からないことはその都度質問し解決している学生が多くいた。

#### ○J2dについて

国籍は中国、台湾、ロシア、アメリカ、オーストリア、フランスなど漢字圏と非漢字圏が混ざった様々な国から来た人が一緒に勉強していた。授業中は静かで、休み時間は自由とメリハリのあるクラスであった。特に非漢字圏の学習者が多かったため、学習者同士で話すときは英語と日本語が共通言語になっていた。また、授業中に積極的に発言をする学生と積極的発言が少ない学生の差が大きく、教師が授業中指名順を配慮したり指名の回数を増やしたりすることで発話の機会を補うことや理解できないまま授業が進まないよう工夫を行っていた。

#### ○J2fについて

全員非漢字圏の国からの学習者で、計17人(1名途中で帰国)、男女比は12:5だった。アジア圏の学習者は1人しかおらず、他は皆欧米出身だった。共通語はほとんど英語だったが、イタリア出身の学習者が5人と多く、イタリア語も飛び交っていた。しかし、英語が苦手な学習者が1名おり、その方は、学習者同士でも日本語でコミュニケーションを取ろうとする意欲が人一倍見られた。

授業中は、8割の学習者は積極的に発言している印象を受けた。先生によると、予習をしている学習者がいるとのことで、予習してくる学習者ほど、発言量が多かった。

#### 【漢字の授業】

漢字クラスは、母語が非漢字圏か漢字圏かでクラス分けされて行われていた。

学習者によって、授業の頻度は以下の通りである。

初級・・・毎日1コマ

中級以上・・・週3日(3コマ)

漢字だけでなく、カタカナもこの授業中に勉強する。

#### ・漢字圏クラスの様子

中国語母語の学習者が多く、先生は中国語の簡体字と比較しながら漢字を導入していた。非漢字圏のクラスと比較して、漢字のより多くのパターンの読み方と使い方を紹介していた。例えば、

「楽」だ。「楽しむ(動詞)」「楽しい(イ形容詞)」「楽な(ナ形容詞)」と多くの使い方があある。これらを、一つひとつ丁寧に導入していた。

・ 非漢字圏クラスの様子

漢字に関しては、よく使う音読みと訓読みにしぼって紹介していた。

カタカナに関して、教師は、カタカナ表記を板書すると同時に、学習者とともに発音しながら教えていた。特に、小さい「ッ」や「ー(長音符)」の発音に留意していた。

## 【レクチャー】

実習期間中に3回レクチャーの時間を取って頂いた。以下ではレクチャーの時間についてまとめていく。

### 1. さまざまな目的別クラスについて

インターカルト日本語学校では、ホームクラスや漢字クラスのほかに目的別クラスというものがある。このレクチャーでは、開講クラスがどのような内容で授業を行っているか、そして目的別クラスの意義について教えて頂いた。目的別クラスでは、全てが正しいとは言えないネットではない情報を学習者に教えることもできるし、哲学や戦争についての授業を通して人間教育を行うこともできるそうだ。

### 2. 日本語学校・業界について

加藤早苗校長先生から、日本語教育や日本語学校についてお話しして頂いた。また、加藤校長先生がインターカルト日本語学校の校長先生になるまでにどのような人生を歩んで来たか、今後日本語教育業界で何をしていきたいか、大切にしている考え等についてもお話しして頂いた。そして、実習を通して感じたことを実習生が1人1人話し、加藤校長先生と一緒に実習を振り返った。

### 3. 漢字指導・漢字クラスについて

漢字指導と漢字クラスについてのレクチャーでは漢字の種類や成り立ちについて教えて頂いた。六書という西暦100年頃後漢の学者の著の中でなされた文字の分析から、「象形、指事、会意、形成、転注、仮借」この6つの分類を学んだ。また、「漢字圏」の学習者と「非漢字圏」の学習者に漢字を教える上で意識していることを教えて頂いた。

## 【目的別クラス】

目的別クラスは、中級以上の学生が履修する選択必修の授業である。JLPTの試験対策講座、ビジネス日本語、時事問題、日本文化など学生のニーズに合わせた様々な講義が用意されている。沢山ある目的別クラスの中で、「戦争と私たち」「読んで聞いて伝える」「楽しい漢字」「哲学カフェ」の4つの授業を見学させていただいた。以下、4つの授業の概要をまとめた。

### <戦争と私達>

このクラスは、前半が前回の復習と担当教員によるレクチャーで、後半は与えられたテーマに関して4~5人のグループに分かれてディスカッションを行うという構成になっていた。前回の復習は、前回授業の最後に学生が書いたコメントペーパーのフィードバックで、参加した回では、沖縄戦に関する学生のコメントに対してフィードバックを行った後、その日の授業内容に入っていた。この日は動物が戦争に使われていた事実についてと、平和とは何かについてのレクチャーがあった。授業後半は、「戦争を起こさないために自分たちに出来ることはあるか」というテーマでディスカッションを行う時間が設けられた。このディスカッションには私たちも参加した。与えられたテーマに関し、「戦争反対の気持ちを持ち続け伝えていくことが大事」「反戦の気持ちを持っていると政府に逮捕されるので一般人に出来ることはない」「国を防衛するために軍隊に入るべきだ」など様々な意見が出て、それぞれ異なるバックグラウンドを持つからこそその意見の違いを強く感じた授業だった。

### <読んで聞いて伝える>

このクラスは、教師によるレクチャーはほとんどなく、学生同士のペアワークがほとんどだった。内容としては、各自で400字程度の文章を黙読しポイントをメモしたのち、メモをもとに互いに自分の読んだ文章の内容を説明し合い、互いの文章の内容に関して質問し合うというワークだった。50分の授業の中で2セット行った。1セット目は、互いに同じ文章で行い、2セット目は互いに違う文章で行った。文章の内容は、日本の昔の食文化について、キャッシュレス決済について、ゴーストレストランと呼ばれる宅配サービスのみで提供するキッチンだけのレストランについてだった。この授業の目的は、文章を正しく理解することではなく、内容は理解できてもそれを言語化して相手に伝えることができない、というアウトプットとインプットの差が激しいことを学生に気付いてもらい克服することが授業の目的である為、文章に関して教師からの細かい説明等のレクチャーはなかった。

### <楽しい漢字>

このクラスは、漢字の読みを覚えやすく、初見の漢字を読みやすくするための漢字の規則を学ぶ授業で、半数以上が非漢字圏の学生だった。今回は、発音パートについての講義だった。初見の漢字でも、発音パートが含まれている漢字はそれを頼りに正しく読むことができるという内容だった。非漢字圏の人の漢字の勉強の仕方を見る機会があまり無かったため、非漢字圏の人がどのように漢字に慣れ、覚えていくのかが分かり非常に興味深い授業だった。

- ・発音のパートがある漢字の例

犠牲→義(ぎ)

献血→犬(けん)

故障→古(こ)

## <哲学カフェ>

このクラスは、学生主体で、先生がレクチャーする場面はほとんどなく、学生同士で考えを共有したりディスカッションを通じてその日のテーマを深めていくという授業形態だった。はじめに、「時間」や「白い」から連想する表現や言葉を学生が自由にホワイトボードに書き込むことで共有した。そのあと、「時間」について4~5人のグループに分かれて自由にディスカッションを行った。グループディスカッションでは、抽象的なテーマにもかかわらず学生が具体例を出しながら積極的に意見を述べたり、他の人の意見に対し反論するなどとても活発な話し合いが行われていた。学習者は日本語レベルは十分でなくても、知識レベルは大人であるという事が実感できた授業だった。

### 【スピーチ大会】

9月13日(火)に「第41回 インターカルト日本語学校スピーチ大会」が開催された。クラスの代表者10名が牛込笹塚区民ホールでスピーチを行った。スピーチのテーマは、日本で興味関心を持ったことや自国と日本を比較した話題など多岐にわたり、出場者は日本語で自分の想いを伝えた。以下にテーマと出場者の出身地を記す。

「今日 食べましたか？」中国  
「からあげ」ドイツ  
「面白いカタカナ」マレーシア  
「日本人偽装マニュアル」中国  
「あの3人」ベルギー  
「たくさんまちがえましょう」コロンビア  
「LGBTQの人たち」タイ  
「野良猫を守る呼びかけ」中国  
「日本のあいさつ」台湾  
「旅の途中」イタリア

私たちは実際に会場でスピーチ大会に参加し、「東京女子大学」という枠で、1位から3位の学生にグーグルフォームを用いて投票も行った。事前に提示された評価シートに基づいて投票先を決めた。会場は出場者を応援するクラスメイト達で満席で、スピーチの内容に対してリアクションをとったり、応援したりと会場が一体となり盛り上がっていた。

最優秀賞、優秀賞、学生賞、クラス代表賞など、最終的に順位がつき、受賞者には賞状やトロフィーなどが贈られた。学生が日本での生活をどのように感じているか、日本での当たり前が他国とは違うこと、日本語を学習する上で大変なこと、どのような思いで日本に来たのかなど、どのスピーチも心に響くものであった。学生は例え、文法的に間違えようとも「聞いている人に伝える」「聞いている人の心を動かす」ということを大切にしながら、気持ちのこもったスピーチをしていた。自分の言いたいことを日本語で表現する楽しさや難しさに学生達が気づき、今後の日本語学習に対するモチベーションに結びつくと考えた。

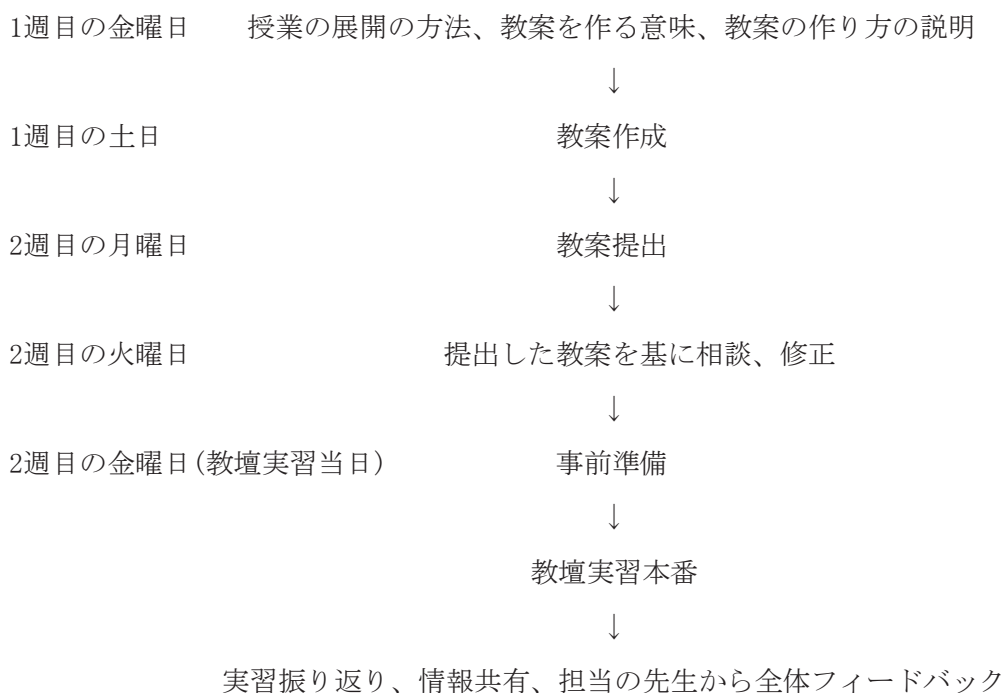
私たちは、このスピーチ大会を通して、「正しい文法」よりも「何を伝えたいのか」を言葉だけでなく、表情やジェスチャーを含め表現することが重要であると感じた。授業内で文法を多く学ぶ

が、言いたいことを相手に伝えられなければ困ってしまうため、実用的な日本語を習得する必要がある。

インターカルト日本語学校のモットーである『日本語を学びたい、すべての人のために「使える」日本語が身に付けられる学校』としてスピーチ大会も貴重な学びの場となっていると感じた。クラス外の経験がコミュニケーションをとる上で重要な学生の「表現力」「説得力」の向上に繋がっていると考えさせられた。

### 【教壇実習】

教壇実習は、実習最終日である9月16日の金曜日にホームクラスの担任の先生の時間を頂き、各自20分間、それぞれ決められた課について導入や運用練習を行った。授業内容は、J1aクラス「25課 ～たら(仮定)」、J1d・J1eクラス「21課 ～と思います(意見・感想)」、J2d・J2fクラス「48課 使役形「～させます(許可)」であり、1人1クラスを担当した。教案は、個人で先生にご指導いただいたり、同じ文法を担当するペアで相談しあったりしながら各自作成した。また、教材として板書や絵カード、パソコンやタブレットなどの電子機器を使うことも可能であり、各自準備したものを使用した。導入では学習者が「話したい」と思うような流れを意識し、共通的に知っていることや共感できる話題を意識し、授業を行った。教壇実習までに以下の通りに準備を行った。



以下に、実習で行ったことや、実習を通して気づいたこと・感じたことを各人が記述する。

(1) J1aクラス「25課 ～たら(仮定)」

20分で「25課 ～たら(仮定)」の導入から運用練習まで板書、タブレットで絵を見せながら授業を行った。

学習者が自然にその文法を使いたくなるようにさせることに注意していたため、自分から先に文法内容を言わないようにしていた。そのため、多くの場面を絵を見せながら、想像してもらう工夫をした。しかし、「もし～したら」という仮定の場面を説明することが難しく、無理にあまり使わない例文を提示してしまったように思う。授業後に担当の先生の授業を見学したが、より実用的な例文を使用しており、反省とともに勉強になった。日常生活で自然と使っている文を意識して探す必要があると思った(爲国)。

(2) J1d・J1eクラス「21課 ～と思います(意見・感想)」

○J1dクラス

ホームクラスの授業見学の際に、指名をスムーズに答えることのできる学習者からにしていたり、運用練習で様々な話題を使っていたり、授業をテンポ良く進めるために沢山工夫がされていることに気がついた。それらを教壇実習の際に実践しようと思い、指名の順番を事前に考え話題をいくつも用意しておいた。しかし、実際に教壇実習を行うと間が空いてしまうことが多かったり、教案で考えていたことと違うことを言ってしまうたりとテンポ良く授業を進めることができなかった(長岡)。

○J1eクラス

日本社会での実践を想定した学習の場を作ることを意識し、授業見学で学んだことを取り入れながら教案作成及び授業準備を行った。具体的には、実際に日本での生活で想定されるシチュエーションを取り入れたり、日常生活で使う自然な表現を意識したり、一人一人の考えや経験を活かせるようなテーマを設定するなど意識した。しかし実際に教壇に立つと、学生の指名や板書、教案通りに進めることに集中してしまい、学生とのやり取りを楽しめなかった。その為学習者の回答に対し普段のような自然な反応ができず、リアルな日本語実践の場を作ることはできなかった(能町)。

(3) J2d・J2fクラス「48課 使役形 ～させます(許可)」

○J2dクラス

教壇実習では学習者が思わず文型を使いたくなるような場面で導入した方がよい、というアドバイスから、もしも自分に5歳の「娘がいたらホラー映画をみせるか」のような、実際に悩む極端な話題を意識したところ、クラスが盛り上がり上手くいったように感じた。一方で、発話量のバランスをみながら進めることが難しかった。積極的に発言する学習者にはその場で反応し、普段から発言量の少ない学習者を指すようその場で対応しながら進めたが、はじめから教案に書くなどその場で起きうるクラスの状況や場面など想定できる限りで準備しておくことでより安心感をもって教壇実習に望めたのではないかと感じた。教壇に立つ上で入念な準備が最も大切であることを学んだ(山崎)。

## ○J2fクラス

教案相談の際に、実習先の先生から「学習者の年齢層が若いから、実際に『～させる』側よりも『～させられる』側の方が多い。学習者に親の立場をイメージしてもらおう」という助言を得た。

私は今まで、日本語をミクロに分析して捉えたことがなかった。これを機に、「言葉をどんなときに使うか」という目線で日本語を捉え直すきっかけになった。日本語教師は、ただ人前に立って教える際の振る舞いや態度、国や地域の文化的背景の知識を知っているだけではなく、日本語をしっかりと分析しておく必要があるのだと気づいた。

教壇実習中は、同じ学習者に話しを振ってしまいがちになり、学習者によって発話量の差が生まれてしまった。皆が同じくらいの練習量ができれば理想的だと思う。しかし、学習者によって、発話の得意不得意がある。「誰も取りこぼさない授業」とはどんなものなのか、をこれから考えていきたい(佐々木)。

反省点が多い教壇実習ではあったものの、クラスの学生は協力的で、一生懸命に私たちの授業を受けてくださり、授業を最後まで進めることができた。授業後には、それぞれよかった点、反省点を振り返り、先生からのフィードバックをいただき、よりよい授業をするにはさらに何をすればよかったのかのアドバイスをいただいた。授業のカリキュラムも決まっている中で、20分という貴重な時間をいただいて、教壇実習ができたことはとてもありがたいと思った。

## 【まとめ】

### ○爲国

実習中は、学習者が日本の様々な分野に興味を持ち、日本語の学習を行っていることがわかった。興味範囲が広いことから、学習者からの質問も難しいことがあり、日本語で説明することが難しいこともあった。普段から日本語を使っている、改めてわかりやすい日本語に言い換えることは、その事柄だけでなく、学習者の言語レベルや国の文化を理解していなければ伝えることができないと感じた。実際に先生方の授業を見学し、何クラスも担当されいながら、学習者の言語レベルや国以外にも、性格やプライベートのことなど日本語学習に繋がる様々な特徴を理解されていることに驚いた。インターカルト日本語学校での実習は「使える」日本語を教えるにはということを学んだ。現場で実習をさせていただいたからこそ、クラスの雰囲気なども学習に活かしていることがわかった。

### ○長岡

今回の実習を通して、日本語学校で教師がどのように授業を行っているか、日本語教育において何を意識しているかなど様々な学びがあった。毎日新しい発見と学びがありとても充実した2週間であった。また、目的別クラスやスピーチコンテストなどホームクラス以外にも様々な授業を見学させて頂き、ただテキストの内容を習得していくことだけでなく、日本語で何かを学んだり、自分の生活に活かせるように学んだりすることも大切なのだと感じた。そして、自分の将来の夢のために年齢や国籍に関係なく一生懸命に日本語を学習する学習者の姿を近くで見るととても刺激を受け、自分がしたいことへの姿勢や取り組み方を改めて考えるようになった。

### ○能町

今回の実習を通して、実際の日本社会での実践を想定した学習の場づくりの工夫を学んだ。具体的には、実際の社会で想定されるシチュエーションで会話練習を行う、グループワークを通じてバックグラウンドや価値観が異なる人たちと意見交換をする、日本に関する知識が得られる教材を扱うなどで、日本社会で想定される環境が教室内で再現されていた。また、教授法だけでなく、バックグラウンドの異なる人たちと意見交換することで新たな視野の発見があり、自分の価値観や考えを見直すこともできた。

### ○山崎

今回の実習を通し、学習者と教師の皆さんの熱意や情熱に刺激を受け、有意義な時間を過ごすことが出来た。特に日本語学校はただ言語知識を教えるだけでなく、学習者と教師が相互に日本語を使って何を考え、どう生きるかを学び、練習する場所であると強く感じた。また最も印象的だったこととしてはJ4aの「話す」授業の見学をした際のことなどが挙げられる。同じ趣味を持つ学習者と会話が盛り上がり、その後学習者自身の夢や人生計画を教えてくれ、最後には自作のイラストグッズをその場でプレゼントしてくれたことがあり、嬉しさとともに日本語を通して他者の人生に触れる「日本語教師という職業」の楽しさを感じられた貴重な経験であった。しかし、ホームクラスでは学習者の方と会話が上手くできなかった場面が何度かあり、日本語文法知識そのものやその伝え方、対人コミュニケーションにおいて、自分の中での足りない部分を強く自覚したため、悔しさとともに更に勉強していきたいという思いが強まった。

### ○佐々木

教壇実習後、先生からのフィードバックで特に印象的だった気づきがある。それは、如何に普段、助詞を気にせずに日本語を話しているかということだ。実習中に先生から「話すときに語順を入れ替えてしまうだけで、学習者は混乱してしまう」とアドバイスをいただいていた。私は実習中に、無意識のうちに、助詞を統一せずに話していたようだ(例えば、「に」、「へ」の区別をしなかった)。

「やさしい日本語」とは、漢語を和語に言いかえるといった工夫で十分だと思っていたが、助詞まで意識を向けて使う必要があると気づいた。

また、私は、自分の意見や意思が揺らいでしまい、話し始めてから、自分が何を話しているか分からなくなって混乱してしまうことがある。自分が何を話そうか、しっかり自覚していないと、話すうちに、後から言葉がどんどん付け足されて、最終的に相手に伝わらないということを、学習者を相手にして、今まで以上に感じた。「やさしい日本語」を使う以前に、自分の意見を見つけることが、コミュニケーションの上で大事だということを学んだ。

【付録】

実習中のスケジュール例

(例1)

13:25~14:15	ホームクラスで授業見学・参加
14:25~15:15	
15:25~16:15	
16:25~17:15	目的別授業
~17:30	フィードバック

(例2)

12:15~13:05	レクチャー
13:05~13:25	
13:25~14:15	授業見学・参加
14:25~15:15	
15:25~16:15	
16:25~17:15	レクチャー
~17:30	フィードバック



◆ カイ日本語スクール ◆

市橋聖子

大河原涼々

佐川愛美

佐々木あおば

松岡咲良

## 1. 実習の概要

期間:7月11日(月)～7月29日(金)

時間:午前クラス→9時～12時50分 午後クラス→13時40分～17時30分

形式:対面またはオンライン(授業の形式やコロナウイルスの感染状況により異なる)

内容:日本語総合コースの「指定クラス」「参加希望クラス」に参加し、主に授業見学やティーチングアシスタントを行った。実習生一人一人のスケジュールは異なっていたが、平均して週に1日～3日授業に参加した。同時に、2チームに分かれて動画教材の作成を行った。

## 2. カイ日本語スクールについて

### 2-1 カイ日本語スクールの基本情報



設立:1987年

場所:東京都新宿区大久保1-15-18 みゆきビル3F(最寄り駅:新大久保駅)

定員:280名

コース:総合コース、ビジネス日本語コース、実用会話コース、サマーコースなど

理念:「イノベーションをキーワードに、学生の自己実現をサポートする」デジタル教材を駆使した最先端の日本語教育を行う機関

(基本情報については、カイ日本語スクールホームページから引用(https://www.kaij.jp/ja/))

カイ日本語スクールの特徴として、日本語総合コースの全学生にL3DGを貸与し、オリジナル教材、学習プラットフォームを提供している。東日本大震災をきっかけにICTに移行し、コロナ禍においてもオンラインを活用してきた。学習者はL3DGを片手に授業に参加している。また、独自のデジタル・ラーニング・システムを構築し、デジタル教材を使っているほか、カイのニュースやお知らせが載っているオンライン掲示板などを用いて、授業だけではなく授業以外のサポートも充実している。現在は対面とオンラインのハイフレックス型で行われている。

## 2-2 コースとレベル分けについて

カイ日本語スクールでは、学習者のレベルやニーズに合わせて、「日本語総合コース」「実用会話コース」「ビジネス日本語」「サマーコース」の4つのコースを設置している。この節では、今回の実習で参加した「日本語総合コース」について述べる。

- ・1学期：10週間（50日間）
- ・授業日：週5回（月～金）
- ・1レッスン：50分
- ・1週間のコマ数：20時間：9:00～12:50または13:40～17:30
- ・クラスサイズ：最大16名
- ・入学：年4回（1月、4月、7月、10月）
- ・留学ビザの申請：可能
- ・入学資格：18才以上および高卒または同等程度

（カイ日本語スクール「日本語総合コース」より引用 <https://www.kaij.jp/ja/courses/general>）

教育目標：日本語の4技能をバランスよく身につける  
コミュニケーション理解・よい人間関係の構築  
自律的に学べる学習態度の形成

学習目的：キャリアアップ、就職、日本文化の関心など

また、「日本語総合コース」は、学習者のレベルに合わせて「Level1」から「Level8」に分けられている。

学習期間とレベル					
初級 (6ヶ月)		中級 (9ヶ月)		上級 (9ヶ月)	
CEFR A1	A2	B1		B2	C1

### 総合コース

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	LEVEL 4	LEVEL 5	LEVEL 6	LEVEL 7	LEVEL 8
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

初級：基礎文法や文型を習得し、日本語の組み立てを理解する。

中級：表現のバリエーションを学び応用力を身に付ける。（社会的話題／文法強化／語彙力増加／漢字1000字）

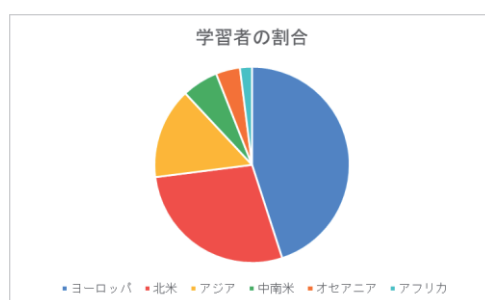
上級：論理的な日本語力や、人間関係構築のための高度なコミュニケーション技能獲得を目指す。また、コミュニケーションだけでなく、日本語の総合的な技能／内容が効率良く学べるように選択制を導入。（表現力・論理力強化／専門課程への準備／漢字2000字）

## 2-3 学習者の特徴

カイ日本語スクールは、さまざまな出身国、年齢の学習者が学び、目的も様々である。まず、出身国については40か国以上の学生たちが日本語学習に取り組んでいる。地域別ではヨーロッパが40%、次いで北米が28%を占め、他にアジアや中南米の学習者も在籍している。様々な国籍の学習者が一緒に日本語を学ぶことで価値観や視野を広げることが出来ると感じた。自国の文化や習慣について授業中に話す場面もあり、日本語だけではない学びが得られるのではないかと感じた。

年齢についても、19歳以下から40代までの幅広い年代の学習者が在籍している。最も多いのは20代で、次に多いのは30代である。学習の動機も進学、就職、生活、日本文化への関心など様々であった。

授業形態についても、対面だけでなく、オンラインに対応する授業を実施している。新型コロナウイルス等の影響で来日できない学習者もクラスに参加することが可能になっており、学習ツールも多様化している。



## 3. 授業について

### 3-1 授業の概要

今回の実習では、指定クラス（月・水・金9:00～12:50/13:40～15:30）と募集クラス（授業活動への参加依頼があった授業）へ20時間以上参加できるように自らスケジュールを組んだ。クラスのレベルが偏らないように初級から上級までのクラスに参加した。

### 3-2 指定クラスについて

指定クラスでは、月・水・金の午前クラス(9:00～12:50)①3M、②4M、③5M、もしくは午後クラス(13:40～15:30)④1A-1、⑤2A-2、⑥3Aで、1（初級）～5（中級）レベルのいずれかの授業を各自参加できる時間に参加した。午前または午後の4コマ連続での参加が求められた。クラスの人数は大体10名前後であった。以下では、それぞれのクラスについて説明する。

① 3Mでは復習も兼ねてまず初めにカタカナの確認を行っていた。教師が単語を読みあげて、聞き取った言葉を紙に書く方式だ。その後は漢字の読み・書き・単語をイラストなどを交えながら学んでいた。部首に色がついている、音読みや訓読みなどの読み方に合わせて色を変えるなど視覚的な理解を促す様々な工夫が見られた。新しい文法を学ぶセッションでは沢山の例文を提示していたことが印象的であった。

② 4Mのクラスは、初めに漢字学習として、自動販売機で使われる漢字の学習を行った。単漢字の学習とその単語を学び、その後学習者全員で読み練習を行い、文づくりを行った。教師が漢字を教える際にパーツごとに分解し、そのパーツにどんな意味が含まれているのかを伝えていたことが印象的であった。その後、敬語の授業が行われ、「訪問する」というテーマを扱った。最初は、自宅で観てきた動画について、グループで話し合いを行った。その後、学習者同士でペアを組んでスクリプトを読む練習が行われた。また、最後の会話練習では各々の部屋を覗き、しっかりと会話ができているか、例文を使って会話ができているかの確認を行った。少し意味理解に難しさを覚える単語があると、教師が英語で意味を言っている場面が見受けられた。

③ 5Mのクラスではオリジナルのテキストを用いて授業が進められた。導入部分ではテーマに合わせた質問を行い会話を広げていた。音読ではペアになり行い、読解が難しい漢字に関しては読み方を助け合って教える姿が印象的であった。その後は〇×クイズなどを用いて内容の確認を行い、アクティビティを行った。協同学習、協調学習を促すジグゾー法というやり方が活用されていた。発表の場面ではクラスメイト同士で褒め合う場面が数多く見られた。

④ 1A-1のクラスではテキストを用いて漢字、形容詞、接続詞の学習をする内容だった。取り扱った漢字は漢数字で、紙のテキストもしくはiPadを用いて、各自数回の書き込み練習が課されていた。先生が学習者を見て回り、一人一人時間をかけて進捗を確認していた。形容詞はフラッシュカードを用いて図から形容詞を当てるクイズをしたり、ペアになって問題を出し合ったりして、数をこなしていた。接続詞は「そして・でも」を扱い、リスニングをしてそれに続いて発音するという流れで、授業全体で読み、書き、リスニング、クイズと様々な学習方法を満遍なく用いていた。初級のクラスであるため、先生が話す日本語は「主語＋は・が」、～です。程度の簡単な文であり、助詞や接続詞はあまり使わずに単語を並べるような感じで話していたことが印象的だった。

⑤ 2A-2のクラスでは出席確認の後、カタカナのディクテーションを行い、読み、文法を学んだ。その後、グループになり宿題であった作文をお互いに読み合い、感想を言い合う場面があった。実習生として主に見学をし、復習の時間の際には歩きながら学習者を見回ったり、作文の添削をした。カタカナの練習では、VT法（ヴェルボトナル法）と呼ばれる教授法で、手を叩きながら「ー」や「ッ」を強調させているのが印象的だった。

⑥ 3Aのクラスは、テキストを用いてカタカナの書き・発音練習と漢字の読み書き、文法を学ぶ内容だった。実習生が参加した回の文法は受身形を扱っていた。カタカナと漢字は授業内でフラッシュカードを用いて一通り学習した後、読み方をひらがなで書いて各自先生に提出する宿

題が課せられていた。受身形はクラス全体で辞書形から受身形に変える練習をした後、受身形を使ってペアで話す時間が10分間あり、音読学習の時間が多く設けられていた。漢字は「覚・忘・決・定」などと似たような意味や対になる漢字を一度に取り扱っており、効率の良い学習方法であると感じた。授業内でクラスメイトと雑談する時間はため語を使うルール、先生と話すときは敬語を使うという風に分けられており、初級の内から学習者が敬語とため語の使い分けに慣れることができるように配慮されていると感じた。

### 3-3 参加希望クラスについて

参加希望クラスは実習生が授業担当講師に参加希望の連絡を取り、参加するクラスである。月・水・金の午前（9：00～13：00）のうち、1コマ～4コマの参加が求められた。2022年度の参加希望クラスは、①5M、②就職活動について、③8M、④上級アウトプットの4つで、どのクラスも中～上級向けのクラスだった。指定クラスと比較してレベルの高いクラスだった。以下では、それぞれのクラスについて説明する。

①5Mのクラスは作文のクラスだった。クラスは9：00～12：50で、クラスの人数は10人程度だった。学習者各自でA4半分程度の作文を作成し、読む練習をした後に、2～3人のグループで発表、全体で感想を言い合うことが主な授業内容だった。実習生はある程度作文が固まった11時に、作文を添削するところから授業に参加した。作文のテーマは「初めて日本に来た時」とあらかじめ決まっている回と、学習者が各自テーマを決めて作成する回があった。学習者が自由に設定したテーマは、日本語を勉強し始めたきっかけについて、自分の夢について、家族の紹介、好きなアニメについて、日本食についてなど様々だった。2名オンラインでの学習者がいたため、はじめの30分程度はオンラインの学習者の添削をし、その後教室を回って学習者の質問に答え、添削した。英語は関係代名詞などで後につく修飾語、日本は〇〇な+名詞などと前に修飾語が長い特徴があるが、文章を書く際は尚更、前の修飾が長いことを違和感に感じる学習者が多いように感じた。「正直なところ」や「見れば見るほど」などの難易度の高い語彙を用いたり、「感動する」を沢山使用しているから言い換えを教えてほしいなどと、バリエーションを問われる鋭い質問があり、中級ながらレベルの高さを感じた。また、オンラインと対面の学習者の出席方法だけでなく、一通り書き終わってから質問をしたい学習者と、その都度質問したい学習者など添削の仕方も学習者によって様々で、学習者によって柔軟に対応を変えることが求められた。添削については、はじめほどの程度まで添削すべきか分からず戸惑ってしまったが、授業記録のフィードバックで講師の方々にアドバイスをもらい、徐々に添削がしやすくなり、やりがいを感じるようになった。

②就職活動についてのクラスは、実習期間中に一度だけ設けられた。6M（中級）の授業の1コマ（11：00～11：50）で、実習生の就職活動の体験談を話し、日本の新卒の就職活動についてや学習者の母国での就職活動について意見交換をする授業内容だった。クラスの人数は15人程度、実習生は2人参加した。まず学習者全員から、名前、出身、職歴について一人ずつ自己紹介があった。その後二つのブレイクアウトセッションに分かれ、実習生がそれぞれ一人ずつ参加し、就職活動や仕事に対する価値観について議論した。学習者から挙がった質問は、日本の新卒の就職活動のスケジュールについて、模範のスケジュールがあることは日本独特だと思うが、そのメリット・デメリットは何か、学生が就職先を選ぶ際に重視する

ことは何か、大企業とそうでない会社はどちらが人気かなどが挙げられた。日本の大学生の就職活動は学生時代に何を学んだかよりも、仕事に対する適性やポテンシャルを見られることが多いことや、就職先を決めるときの優先順位は給料が一位ではないことなど、他の国と比べて独特で面白いと、実習生の経験談をよく聞いてくださった。学習者は前職がエンジニアの方、庭師だった方、現在も日本語学習と並行して母国の会社でリモートワークをしている方など多様で、それぞれの国での仕事や経歴、仕事に対する条件などを話し合うことができ、日本語学習と同時に異文化交流ができた授業だった。

③8Mのクラスは、アイスブレイクのような感じで15～20分程度の雑談の時間から授業が始まった。その後、「知識の時間」という時間が設けられ、学習者が気になった事柄や興味のあることについての発表が行われた。見学時は、1人の学習者が落語についての発表をし、聞いている学習者は自己評価シートを基に理解を深めていた。この授業のメインは、「時事問題」で、各々が持つタブレットから課題となっている文章を読み、その後〇×クイズに取り組んでいた。授業終盤は私たち実習生との交流の時間が設けられ、日本の就職活動事情や文化の違いなどについてのお話をし、日本語だけに留まらず、日本についての理解を深めていた。

④上級アウトプットのクラスは、文字通りアウトプットの授業で、学習者が自分の話したいことについて話せるようになることがこのクラスの目的だった。クラスは9:00～12:50で、クラスの人数は10人だった。授業第1回目のオリエンテーションの際に、学生から話したいテーマを出してもらい、クラスで話し合っ各授業ごとのトークテーマが既に決められていた。授業のはじめに学習者・実習生共に一人ずつ簡単に自己紹介をした。その後テーマについての関連動画を視聴し、各自思ったことをメモしてブレイクアウトセッションで発表、お互いにフィードバックをし合い、メモを作り直し、再度ブレイクアウトセッションで発表するという流れだった。実習生が参加した回のテーマは「理想の人間、好きなタイプについて話すことができる、具体的な場면을例にして人間について説明する」と「日本の生活について話すことができる」だった。メモを作成する時間で自分の話したいことに必要な語彙や文法表現を調べていたが、メモに書くのは単語程度であり、文章全体は発表する際にその場で考えていた。「資本主義」「地に足がついている」「優柔不断」「成り行きに任せる」「二人三脚」など難易度の高い言葉を使っていたことが印象に残っている。内容や文構成はほとんど直すところがなく、敬語とため語が混同している部分や接続詞の表現を訂正する程度のレベルの高さだった。

## 4. 動画作成について

### 4-1 「夏祭りを楽しもう」について

佐川、佐々木の2名で担当した。

私たちのグループは、オンラインで夏祭りを楽しんでもらう、「夏祭りを楽しもう」という動画を作成した。

このテーマを選んだ理由は2つある。1つ目は、コロナ禍でコロナ以前のような日本の文化に触れることのできる行事が減っている中でも、日本の生活や文化についてを日本語を通して知り、体験してもらおうと考えたからだ。また、この点においては、実習期間が夏であり、コロナ禍でも楽しむことができる夏祭りがあるという情報もお伝えしたいという私たちの希望も含まれている。2つ目は、文化を伝えやすく、会話表現の練習に繋がりやすいと考えたからだ。夏祭りには、浴衣を着る人も多いため、浴衣についての紹介ができる。さらに、屋台という出店がたくさんあることで、買い物をする機会が多くあるため、日本語を通して、日本文化を体験してもらえる材料になると考えた。これらの2つの理由を掛け合わせ、「夏祭りを楽しもう」という動画を作成した。

本動画の流れとして、夏祭りの目的、浴衣と屋台の説明後、屋台で買い物をする疑似体験の意味も込めて会話表現の練習という構成にした。疑似体験の際、何をするものなのかが分かりにくいゲームやどんな食べ物なのかを紹介するための説明の時間を設けた。



図1 浴衣の説明に用いたスライド

動画を作成するにあたり、最も注力したのは、より視聴する学習者にとって親近感を感じることのできる動画にすることである。視覚資料は学習者にとっても理解を深めるのに役立つものであるが、イラストやフリー素材の写真を用いすぎると、学習者にとって身近なものではなくなってしまう。そのため、自分たちが写っている写真を用いて説明したり、

食べ物に関しては自分自身のエピソードも含めることによって、学習者にとっても親近感を感じることができるような伝え方をすることを意識した。

「かきごおり」とは...



こおり こま けず こおり  
氷を細かく削った氷の  
かし  
お菓子です。  
いちご、メロン、ラムネ  
などの様々な味のシロップ  
をかけて食べます。



図2 「かきごおり」の説明に用いたスライド

屋台に関するセクションにおいては、仮段階で先生に確認して頂いた際、会話表現の練習に用いたたこやき、金魚すくい、かき氷のいずれも、そのもの自体を理解していない学習者がいるかもしれないという指摘を受けた。そこで、会話表現の練習に移る前に、そのもの自体の説明を加えることにしたが、その説明の作成に苦戦した。説明しようとする表現が難しすぎたり、説明が複雑すぎてかえって難しくなりすぎてしまったため、本動画を作成するにあたって最も苦戦したが、最も工夫した箇所でもある。

れんしゅう  
練習してみよう！①

A: いらっしゃいませ！

B: きんぎょすくいを1回やりたいたいです。いくらですか？

A: 1回300円です。

B: おねがいします。(お金をわたす)

A: それでは1回どうぞ！



図3 会話表現の練習に用いたスライド

会話表現の練習のセクションにおいては、言い換えれば異なる場面でも使用することができるように、言い換える箇所に下線を引いた。金魚すくいなどのゲームとたこやきなどの食べ物とでは用いる個数表現が異なるため、動画内では別に資料を作成し、練習を行った。さらに、かき氷は味を指定する場合もあり、金魚すくいやたこやきなどとは異なる表現を用いる場面が想定できることから、かき氷についても別に資料を作成し、練習を行った。

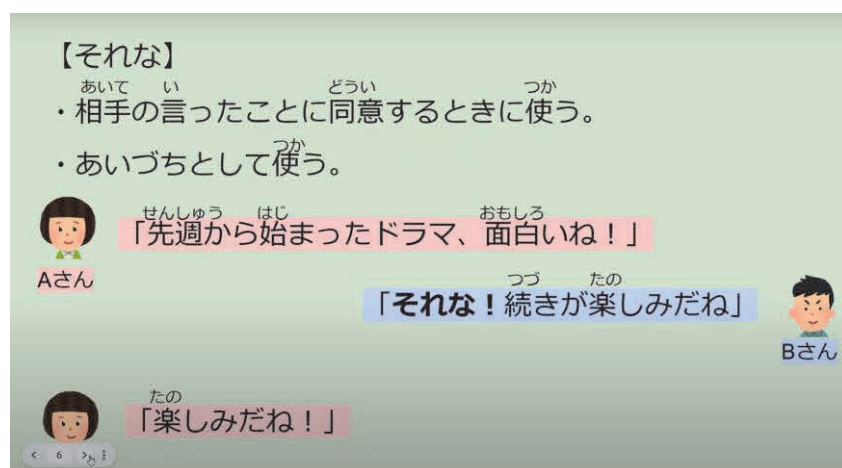
実際に動画を作成してみて、会話表現の練習において、練習自体は成り立っているが、果たして実際の現場でこの通りのシチュエーションになるかが難点であると感じた。私たちの経験を基に考えてみても、あくまで会話表現の練習に過ぎず、実際の場面でこの練習通りに行くとは限らない。しかしながら、1つの教材を作成してみて、夏祭りをオンラインで楽しんでもらうというコンセプトは達成することができた。今まで遠い存在であったものが学習者にとって身近に感じるようになり、興味を持ってもらえたと思う。

#### 4-2 教科書に載っていない日本語について

市橋、大河原、松岡の3人で担当した。

私たちのグループは、教科書には載っていないが実際に日常会話で使用する多くの言葉について紹介した。この動画を作成した理由は2つある。1つ目は授業を見学していた際、単に教科書の内容だけを教えるのではなく、略語やイディオムなどの実生活に役立つ知識を織り交ぜていたからである。カイ日本語スクールの学生の多くは大人であるため、受験のための英語ではなく日常会話で使用する日本語に興味があり、中でも略語やイディオムに対する学生の反応は良いと先生から教えて頂いた。2つ目は、自分たちが第二外国語を学んでいる立場だったら何が知りたいかと考えた時に、友達などとのナチュラルな会話で使用する言葉を知りたいと感じると思ったからである。また既に友達口調を学習した学生は会話する相手によって使い分けようと心掛けていることを先生から教えていただいた為、実際のやり取りを伝える事は役に立つと考えた。

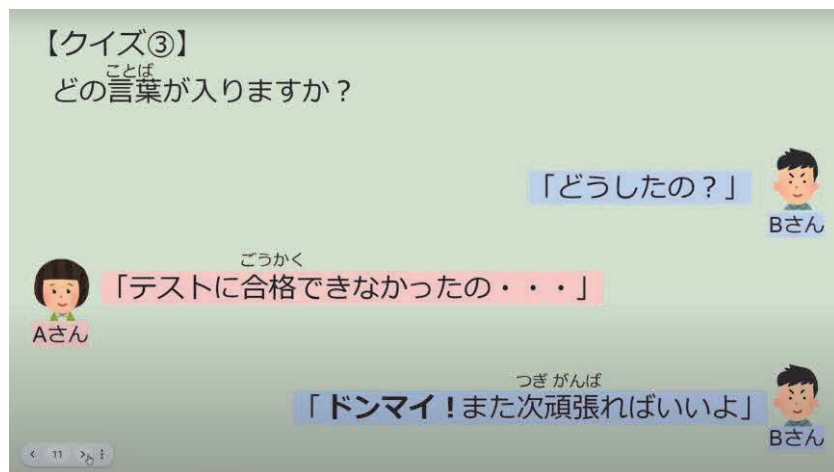
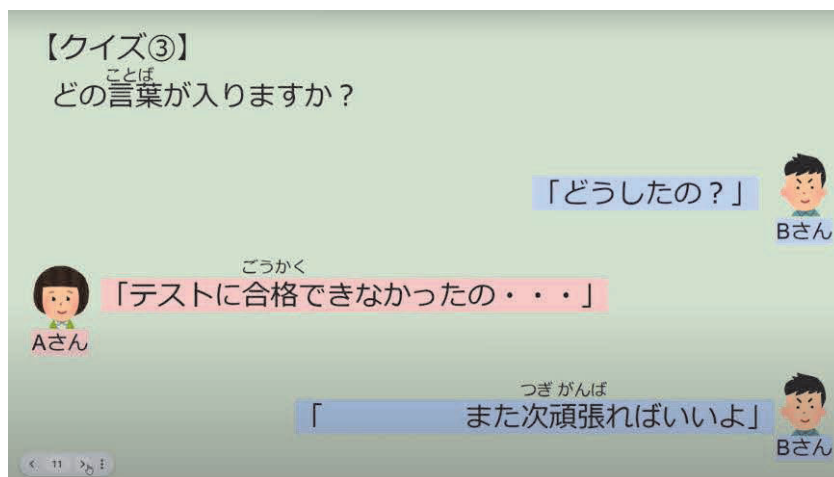
本動画の流れとして、この動画の目標、「教科書に載っていない日本語」とは何を指すのかを説明後、5つの言葉の意味と例文を紹介し、最後にクイズを通して復習をする時間を設けた。



言葉の説明に用いたスライド

言葉の説明に用いたスライドでは、一目で今回学習する言葉が認識できるように太字にし、友達口調を未習の学生にも分かりやすいように言葉の説明と例文を長くし過ぎず簡単に簡潔な言葉を用いることを心掛けた。またこのセクションでは、AとBのセリフに自分たちの声を

当てはめて、出来るだけ日常会話に近いテンションで話すことによって、その状況が想像しやすいよう工夫した。



クイズに用いたスライド

クイズに用いたスライドでは、上の図にあるよう正解の言葉が入る箇所を空欄にし、学習者自身で答えを考える時間を設けた。その後正解が画面に表示されるようにし、学習者がBになって例文を読み、やり取りを体験する形式にした。クイズのセクションを作成した理由は、仮段階で先生に確認して頂いた際に、動画教材はただ視聴しているだけで時間が過ぎていくため見ている学生が飽きてしまわないよう、参加できるセクションを作ると良いという

アドバイスを受けたからである。実際にクイズを動画に組み込んだことで、単に言葉を紹介するよりも動画に緩急が出来て良いアクセントになったと感じている。

動画を作成して感じたことは、動画教材では通常の授業以上に学生の立場にたって内容を考えることが重要だと感じた。説明が少なすぎても多すぎても混乱を招いてしまう可能性がある為、動画を作成していく段階ごとに立ち止まって確認することが大切だと感じた。また自分が思っている以上にゆっくり、明るく話さないと暗い印象になることに気づいた。



◆ 新宿日本語学校 ◆

竹内結衣

チャンフォンアイン

服部明日香

# 新宿日本語学校 実習報告

K19F2072 服部明日香

K19G1054 竹内結衣

K19H2062 チャン・フォン・アイン

## 1. 実習概要

### ○実習概要

- ・期間：2022年7月5日～2022年8月8日（説明会：2022年6月29日）
- ・内容：主に授業見学とイベントの企画・実施を行った。実習生一人ずつに担当の先生がついてくださり指導を行っていただいた。

### ○新宿日本語学校の概要

- ・設立年：1975年
- ・設立者：江副隆愛・江副勢津子・江副隆秀
- ・所在地：東京都新宿区高田馬場2-9-7（1号館）  
1～3号館・新館の四つの校舎で授業が行われている。
- ・学生：約50か国より約480名（2022年7月時点）
- ・特徴：

文部科学大臣より準備教育課程の指定を受けており、母国での学校教育が12年未満でも新宿日本語学校で一年以上学ぶことで日本の大学・短期大学・専門学校への入学資格を得ることができる。文法を可視化させた江副式教授法に基づいて作成した独自の教材を利用した授業を行っている。この江副式教授法をろう学校での学びに生かすための取り組みにも力を入れている。NTTコミュニケーションズと共同開発したVLJ（Visual Learning Japanes）を初級に導入することで授業と合わせて効果的に学習を行えるようになっている。

## 2. コースについて

新宿日本語学校には、7つのコースとクラスがある。

### ○平日コース

#### 一般コース

日本語を使用し、自然なコミュニケーションをとることを目的にしている。

初級：初級基礎 初級1 初級2

対象レベル：初心者～N5 / A1合格相当レベル

日本語の文法と会話の基本を学び、日常的に使う日本語の基礎を身に着ける。

中級：中級基礎 中級1 中級2

対象者レベル：N4～N3 / A2～B1合格相当レベル

初級での学びを基礎に、状況に基づく日本語を学ぶ

上級：上級1 上級2

対象者レベル：N2～N1 / B2～C1 合格相当レベル

日本人とのコミュニケーションに支障をきたさないレベルを目指す。

特進コース

日本での進学や、短期間での日本語の上達を目的とする。

○短期コース

夏の4週間 午前は日本語の授業、午後は日本文化を体験できる

○対策クラス

日本語能力試験対策コースと日本留学試験対策クラスの2種類

○夜間クラス

忙しい方向けに火曜日と木曜日の開講

○土曜・日本語クラス

日本語を初めて学ぶ方や職業に生かしたい方向け

○プライベートレッスン

個人が1時間単位で受けることができる授業

学習者が望めば学校以外の場所で、授業を行うことも可能。

○漢字クラス

生活漢字クラスと応用漢字クラスがある。漢字圏の学習者も参加可能。

### 3. 江副式教授法・教材について

○重箱カード

江副式文法では日本語の品詞を視覚的に理解できる重箱カードを使用して説明する。図のように活用する語は右端が尖っていて活用しない語は四角くなっている、動詞は緑色で形容詞は青色など色や形で判断ができるように作られている。その中でも特徴的なカードが「なにでの形容名詞」である。一般的な日本語教育の説明では「い形容詞」「な形容詞」として扱われている語であり、「きれい」「静か」といった語が該当する。「な」が活用する語の時と同じ三角形、「に」「で」「の」が助詞と同じ白色の四角に書かれており、接続するのに必要な語のみを表に出してほかの重箱カードと繋げて見せられるように切り込みが入っている。

動詞グループ		名詞グループ		副詞グループ	
動詞		なにでの形容名詞		副詞	
する名詞		名詞		する副詞	
形容詞		時数詞		呼応の副詞	
文末表現		する名詞			

図 1：重箱カード（出典：※1）

### ○助詞の考え方

日本語は情報と述部に分かれていて、それらを繋げる役割を果たすのが二列の助詞だというのが江副式文法における助詞の捉え方である。図のように助詞もそれぞれ形が異なっており、他の品詞よりも形で意味が推測しやすいように作られている。

以上の重箱カードを学習者に説明する際は図のように使用する。「部屋」が名詞の黄色いカード、「を」が助詞、「きれいに」がなにでの形容名詞、「する」が名詞である。助詞の部分には二列に分けるための線が引かれている。「を」は対面で説明する際には、複数の意味がある中での「部屋」という対象を表す「を」であるため矢印を上から掴む形で隠し、対象を掴むようなイメージを表現する。

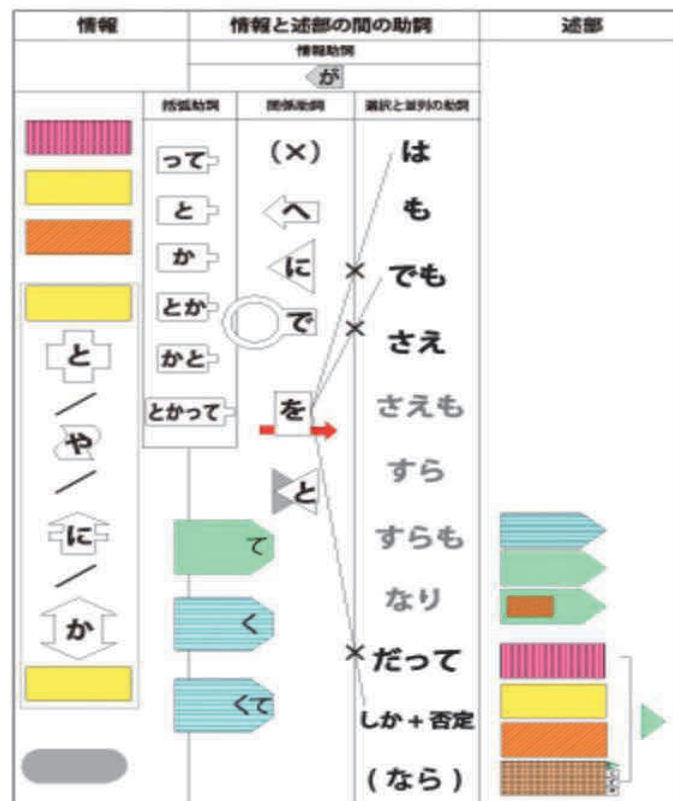


図2：二列の助詞（出典：※1）

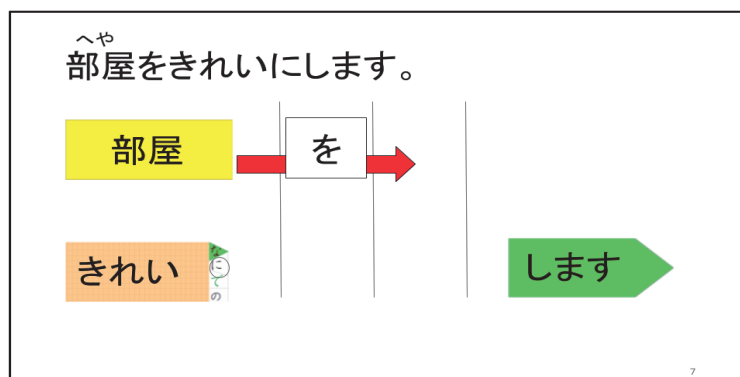


図3：重箱カード使用例

### ○身体的な説明

江副式教授法では動詞の導入の際や敬語のうち・その関係を説明する際など語の活用と動作を組み合わせて説明する。例えば、動詞では否定形では手を横に振る動作、過去形では後ろにもっていくような動作といったように一連の動作が決まっています、一つの語を導入するたびにその動きで活用を確認する。

### ○VLJ

NTTコミュニケーションズと共同開発したVisual・Learning・Japaneseはいつでも授業のコンテンツにアクセスでき、必要に応じて学べるアプリケーションである。スマートフォンやタブレット端末で利用でき、学びたいときにすぐアクセスできることで学習意欲を失わずに学べる仕組みを整えている。このオンラインで利用できるアプリケーションと対面の授業どちらでも学ぶことで学習効果を相乗効果的に高めることが期待される。

## 4. 実習内容（全体）

今回は3人とも午後の初級1クラスを担当させていただいたため、本章では3人の実習に共通した点を報告する。

### ○全体スケジュール

新宿日本語学校の実習期間は個人のスケジュールに合わせるが、基本的には週2回、毎回12：30～17：30の5時間で学校に行き、教務作業、授業設備、授業補佐と宿題添削等を体験させていただいた。詳細は以下の表1をご参照ください。

表1：実習スケジュール

時間	実習内容	具体的行動
12:30 ～ 13:00	教務作業	教材準備・例文づくり等
13:00 ～ 13:30	教室設営等	パソコンの立ち上げ・Google Meet を起動・重箱カードの準備等
13:30 ～ 16:45	授業補佐	出欠確認・授業見学・机間巡視・会話補助・オンラインの学生補助・導入担当等
16:45 ～ 16:55	教室片付け	ホワイトボード、重箱カードの片づけ・パソコン、電源等
16:55 ～ 17:30	宿題添削	宿題添削・先生と打ち合わせ

#### ○初級1クラスのレベル目安 (N5・N4)

新宿日本語学校は独自の教科書が使用されており、江副式教授法やVLJ等学校の独自教授法を用いることが特徴である。そのため、学習者を円滑に使用させるために、初級1レベルに入る前に、初級基礎というレベルが設けられる。

初級基礎ではひらがな、カタカナと簡単な漢字の読み書き、日常生活に身近な言葉や、「○○さん」「先生」「質問があります」など、教室にも役立つ表現は導入済みである。また、江副式のルールやVLJの使い方も授業の毎回到使用させている。以下は具体例が挙げられる。

- ・文字：ひらがな、カタカナ、簡単な漢字
- ・語彙：国籍、言語、時数詞、場所、食べ物、飲み物、服、天気、家族簡単な形容詞等
- ・表現：挨拶、自己紹介、呼び、返事、質問があります、感謝、謝罪表現、うちよそ等

## 5 実習内容（個人）

### ○服部

#### <主な実習内容>

初級クラスにおいて授業見学、会話練習への参加、文章作成課題の添削を行った。担当クラスの授業外では、初級基礎クラスの授業見学、入学希望者相談対応の見学等を行った。

#### <クラスの様子>

授業は実習の前半は対面中心、後半はオンライン中心と常にハイブリッド型授業での実施となっていた。私が担当したクラスも15人学習者が在籍していたが、欧米の学習者が多数を占め、2人香港出身の学習者がいた。参加したのは新宿日本語学校での新学期初回の授業からだったが、初級基礎クラスで同じクラスに所属していた学習者が多いようで授業前から主に英語でにぎやかに会話している様子が見られた。授業中もその空気は変わらず、教師に対しての質問や学習者同士での意見交換も積極的に行われていた。

#### <授業の流れ>

##### ①復習

毎回前回の文法の復習や今回学ぶ範囲と関連する初級基礎の内容について復習を行った。基本的にはその文法を使用した文章で数分会話練習を行う形だった。

##### ②単語の導入

新出の単語を使用場面と共に学ぶ。身近な場面設定で説明することで、導入ではあるが学習者の発話機会も多いように感じた。

##### ③文法の学習

まずは動画を見て学ぶ文法とそれがどのような場面で使用されるかを学ぶ。その後、スライドで複数の例文を繰り返し声に出すことで定着を図る。その後ペアで会話練習を行い、発表する。最後に学んだ文法を使用した例文を作成し、添削を受けるという流れで文法の理解を図っていた。

##### ④漢字練習

漢字の学習は授業の進度によって数が増減していたが、毎回3語程学んでいた。まず読みと書き順について学び、実際に書くというのが流れとなっており、添削補助も行った。

#### <実習内容それぞれの学び>

##### ・会話練習への参加

会話練習では「授業に積極的な参加を心がけ、学習者の理解を助けられるようになる。」という実習全体の目標の下、自分から学習者に声をかけ、制限時間内で多くの会話練習ができるように意識を

して臨んでいた。しかし、はじめは指示された練習が終わると話すべきことがわからず沈黙の時間になってしまい自分から話しかけられないという状況が続いた。その際に、指導担当の先生は板書の時間では板書を見るだけでなく聴く練習ができるよう常に発音を続ける、会話練習では一つの会話をさらに膨らませる質問をするといったことを意識していると教えてくださった。そこから、学習者が教室内で学べることを最大限にするためには常にインプットできる環境にできるような工夫を重ねていくことが必要だと学んだ

また、学習者と会話が続かなかった原因として、自分の出来事を話す場面で学習者が話す場所が学校の近辺である高田馬場や新宿や渋谷、秋葉原といった東京の有名な場所についてのことが多かったにもかかわらず私がわからなかったことだ。特に学校の周辺については共通の話題にもなりやすい部分であるため、事前に一度周辺の施設や店について知っておくことも必要だったと感じた。教師も学習項目についてだけでなく、様々な知識を取り込むようにしておくことで学習者と共通の話題も増え、より多くのコミュニケーションにもつながると分かった。

#### ・文章作成課題の補助

学習した文法を使用した文章を考える課題で、私には学習者の意図をくみ取り、その上で正しい文章にすることが求められた。しかし、自分自身も言語化して説明できず曖昧な回答をしてしまい、相手に対して説明を行うためには自分の中で完全に整理ができていないといけなかったと分かった。授業後に担当の先生に質問を繰り返すことや、自分で調べてみることを行ってはいたが、毎回のよう新しい課題が出てくるため、常に知識を取り入れアップデートしていくことが必要だということもここで学んだ。

#### ・初級基礎クラスの授業見学

担当した初級クラスの一つ前の段階である初級基礎クラスの授業を見学させていただいた。まだ使用できる表現が少ないこともあり、教師が中国語を話し、それを中国語が母語の学習者が英語に訳し、全員が理解するという場面がしばしば見られた。伺ったところ、すべて日本語で行うのが理想的な授業だが、現在のようなコロナ禍での制限下だと部分的にこのように日本語以外の言語を使用してしまうこともあると困ったようにおっしゃっていた。対面で授業が実施できないというのはコミュニケーションが重要である言語教育という場面では非常に大きな問題であることを再認識した。

#### ・入学希望者の面談見学

見学させていただいた学習者は、ウガンダ出身で母親が日本人ということもあり、母国の大学で日本語を学んだ経験もあるという方だった。N3は合格しており、読解はN2レベルに達していないがリスニングはL1レベルとおっしゃっていた。

担当の教師は4技能の力を会話の様子、日本語能力試験の結果等を聞くことやテストによって測り本人の学習に対する希望を聞いたうえで、今回はリスニングの実力に合わせてクラスを決定した。しかし、N2のテストで読解の点数が足りなかったことから特に漢字に対して不安感を感じているということで授業についていけないことによるモチベーションの低下を防ぐための提案も併せて行っていた。この面談がその後の学習に良くも悪くも影響することを感じ、丁寧な聞き取りが必須だと分かった。

## ○竹内

### <クラスのレベル内容>

授業の様子から、ひらがなやカタカナを書くことや読むことができていた。しかし、伝えたい内容の全てを、日本語に変換するのが難しいため、アイスブレイクのためのフリートークなどでは、日本語と英語を混ぜて話す場面が多かった。漢字は、導入する前に、「この漢字を知っていますか？」と聞くと、クラスの何人かは答えることができていたことから、漢字の理解度は高いと思われた。

### <クラスの様子>

クラスの人数は12人で、出身国がアルゼンチン、アメリカ、デンマーク、タイ、フランス、イタリア、オーストラリア、イギリスの学習者であった。コロナ渦だったため、対面とオンラインのハイブリット型の授業だったが、オンラインでの参加だったのは1名のみだった。年齢は比較的若かったが、働くことを目的に学ぶ学習者は、年齢層が高かった。

以前からクラスが一緒だった学習者同士は、既に関係性が構築されていたため、夏休みに日本を旅行する予定を立てているほど仲が良かった。その他学習者も、ペアワークの際には日本語と英語を使用し、話しが盛り上がっていることが多かった。授業中に疑問を感じた場合、挙手してその場で質問する学習者と授業後に聞きに来る学習者があり、質問に来るタイミングはそれぞれだったが、理解できるまで日本語を学ぼうとする姿勢から、積極的だと感じた。

学習者の学習目的はそれぞれだったが、日本語を習得するという共通の目標があるため、理解できないことがあれば学習者同士で教え合うなど、穏やかな雰囲気の中で授業が進められていた。

### <クラスでの活動>

授業の見学、授業補佐、教室の設営を行った。授業のない時間帯は、七夕用の短冊の作成や、導入のための教案・スライドを準備した。

授業内では主に、名詞・形容詞・文型の導入を担当させていただいた。

その日導入する内容を、重箱カードとイラストを使用したスライドにまとめて準備をした。

名詞と文型の導入時には、コーラスで繰り返し練習をし、最後に学習者を指名することで、それぞれの理解度を確認した。形容詞は、テンスで導入した。

教案とスライドの準備をする中で、文型の導入時に、ふさわしい例文を考えることが難しいと感じた。学習者にとって面白い例文を作成することで、興味を持ってもらいたいという気持ちで様々な例文を提案したが、状況説明がなされていないことや未学習の表現を使っていることなどから、授業では使用できないことが多かった。

初級1	第2課 (4日目) 担当: 竹内穂衣
導入後	
	挨拶をする
	出前をとる
	ピザを見せる
	T:では一緒にいましょう、この動画はスマートフォンでもみることができます。 S:この動画はスマートフォンでもみることができます。 T:へえ、すごいですね。 S:へえ、すごいですね。
	④ T:では、一緒にいましょう、この新幹線は京都まで行くことができます。 S:この新幹線は京都まで行くことができます。
	⑤ T:では、一緒にいましょう、ここから富士山を見ることができます。 S:ここから富士山を見ることができます。
	④ T:では、一緒にいましょう、ここでは馬に乗ることができます。 S:ここでは馬に乗ることができます。
	⑤ T:します することができます 一緒にいましょう S:することができます
	⑥ T:食べます 食べることができます 一緒にいましょう S:食べることができます
	⑦ T:話します 皆さんだけでチェンジしましょう S:話することができます
	⑧ T:来ます 皆さんだけでチェンジしましょう S:来ることができます。

	⑨ T:飲みます 皆さんだけでチェンジしましょう S:飲むことができます。
	⑩ T:走ります 皆さんだけでチェンジしてください S:走ることができます
	⑪ T:泳ぎます 皆さんだけでチェンジしてください S:泳ぎます
	⑫ T:ではワミさん、歩きますチェンジしてください S:歩くことができます
	⑬ T:ではセリンさん、飲みますをチェンジしてください S:飲むことができます
	⑭ T:ラーメンを食べることができます 一緒にいましょう S:ラーメンを食べることができます
	⑯ T:この海は泳ぐことができます 一緒にいましょう S:この海は泳ぐことができます
	⑰ T:では皆さんチェンジしてください、美味しいラーメンを食べます S:美味しいラーメンを食べることができます
	⑱ T:では、皆さんチェンジしてください、犬を飼います S:犬を飼うことができます
	⑲ T:では、皆さんチェンジしてください、きれいな海に入ります S:きれいな海に入ることができます
	⑳ T:では、〇〇さんいましょう、ここからスカイツリーを見る S:ここからスカイツリーを見るすることができます
	㉑ T:では〇〇さんいましょう、私は自分で着物を着ます S:私は自分で着物を着ることができます
	㉒ T:日本、18歳で大人です。車を運転できます。みなさんのお国では何ができますか? S:お酒を飲むことができます。

図4:授業で作成した教案の一例

### <学んだこと、気づいたこと>

私は今回の実習を通して、2つのことを学んだ。まず1つ目は、日本語教育には、「準備」が非常に大切であるということ。パワーポイントでイラストや重箱カードを使用したスライドや導入内容にあった例文を作成し、授業の準備を徹底する先生方の姿や、その教材で繰り返し学習し、日本語を習得する学習者の姿を見て、大切さを実感した。また、学習者は、授業中に疑問に感じたことは、積極的に質問をするため、予め質問に答えられるように準備しておく必要があることを学んだ。2つ目は、教えを実用的なものに結び付けること。例えば、「席」という名詞を導入する際に、優先席という単語と意味を教えることや、疑問文の受け答えを練習する際には、はい、いいえの二パターンを教えるだけでなく、日本人のよく言う言い回しを教える場面が多々あった。日本語教師は、その日に設定されたことを教えるだけでなく、日本で暮らす学習者にとって必要な知識や受け答えまでを教え、実用的なものに結び付けるまでが仕事なのだを学んだ。約1か月間の実習を通して、自分が導入した名詞、形容詞、文型を、学習者が習得しているのを見て、とても大きなやりがいを感じた。初級の導入という大切な基礎の部分を担当したことで、日本語教育の難しさや楽しさを経験できた。

## 〇アイン

### <クラスの様子>

私は初級1Aクラスを担当させていただいた。このクラスの特徴は4つが考えられる。

第一に、人数は15名で少人数である。新宿日本語学校では、教師が学生の一人一人の理解度を把握し、適切なサポートができるように、クラスの人数は20人以下を確保している。

第二に、日本語で自然なコミュニケーションができることを目的とした一般コースであるため、学習者の目的は進学や就職だけでなく、定住や趣味等、学習目的が多様であり、学習者の年齢も18歳から40代まで多様的に、多文化クラスだと感じた。

第三に、私の実習クラスはアメリカ、メキシコ、オーストラリア、イタリア、フランス、スウェーデン、ベルギー、イギリス等、国籍が様々である。授業ではできるだけ日本語を使うが、休み時間では英語を共通語としてコミュニケーションしている。

第四に、授業内に積極的に発信し、分からないことがあればすぐに質問する学生が多くいた。学習者が積極的に授業に参加するため、教師は学習者の集中度について心配しないが、意外な質問を頻繁に受けているために、それらの質問に答えられるように教師が常に勉強する必要性が感じられる。

### <活動とその学び>

実習内容は3人で重なっているため、本節では実習期間で特別な体験と、それを通して学んだことについて報告する。

#### ・学習者の補助

日本語教育実習生と同時に、学生と同様に日本語学習者である。そのため、書く練習や話す練習をサポートする他に、みんなの先輩のように、日本生活や日本語学習の経験についてもシェアし、日本語勉強のやる気を引き出すために頑張った。逆に、学生も私を見守ってくださいました。先生と学生は上下関係ではなく、お互いに学びあうことが重要だと考えました。

さらに、今回は先生ではなく、学生ではなく、中間的な立場で授業に参加したため、自分の日本語学習も日本語教育も見直す機会になったと感じた。詳しくは後節に報告する。

#### ・ハイブリッド授業サポート

授業は基本的に対面で行われているが、コロナ感染する学生や濃厚接触者になる学生はオンラインに参加することになる。今回の体験を通して、ハイブリッド授業は様々な工夫が必要だと学んだ。

初めてのハイブリッド授業は、登校の学生だけでなく、オンラインの学生にも注意を向けないといけないので、立ち位置や画面共有、板書の位置など色々考えなければならないことが多く、上手く対応できなかった。また、大学のオンライン授業ではZOOMを使いこなしたが、新宿日本語学校ではGoog

le Meetを使用するため、全画面共有をした際に学生の顔が見えなくなってしまい、オンラインの学生の存在を忘れがちであった。解決策としては、スマートフォンやiPadなどからMeetに入り、学生の顔と表示されている画面を同時に見るができるようになった。新型コロナウイルス感染拡大が始まった2年前だったが、学校は授業を中断させないように様々な工夫をしたことが分かった。

#### ・例文づくり

授業が始まる前に、指導の先生と打ち合わせて、授業で使用する教材・教具や例文について相談していた。学生はみんなそれぞれの学習法があるため、できるだけ多くの学生が理解できるように様々な教授法を使うことが大切だと学んだ。また現在、午後クラスは夕方の時間の混雑を避けるために休み時間をずらしているため、1コマ90分と通常よりも1コマ長くなっている。学生が疲れており、集中力がきれてしまうことを防ぐために、教師も学生を飽きさせない工夫が必要だと教えてくださった。

例えば、「～てみる」「～と思う」という文法を導入するには、先生はラベルのない「いろはす」のペットボトルを用いて、「これは水ですか？ジュースですか？」と学生に聞いて、「分かりません。飲んでみます」と「甘いです、ジュースだと思います」と、文型を導入させると同時に、実際にある日本の面白い商品も上手に授業に用いられたので、今でも強く印象に残った。このような例文を作るようにしたくなるため、日常生活からどうやって教材として用いるのかを考え始めた。

#### ・教壇実習

私は、週1回言葉の導入や基本練習などを担当させていただいた。最終回は1コマを担当させていただいたが、濃厚接触者になったため、オンラインで見学することで実習を終わらせた。残念であったが、短い導入からでも学ぶことが多くあった。

まずは、アクセントである。日本語教員養成課程の発表から、アクセントが不自然だと指摘されたことがあるが、日常会話ではアクセントが不自然であっても、相手はコンテキスト等によって理解できるため、あまり気付かなかった。しかし、言葉の導入の時は見本を見せますので、正しくしなければならぬため、初回の実習後に先生から指摘された。2回目からは授業の前に、単語を事前にアクセント辞典で調べ、正しいアクセントを練習しておいた。今回の経験は、自分のこれまでの学習方法を見直すきっかけにもなった。

3回目からは、導入だけでなく、学生が学んだ文法と単語を総合的に応用させるように教案を準備した。具体的には、柄に関する言葉を導入と繰り返し練習の後、「〇〇さんはどんな服を着ていますか？」と学生に聞き、学生は服、柄の単語に加えて、「着る」「履く」「かぶる」など等、適切な動詞を選ばせて、自分やクラスメイトの服を文で説明できるようになった。まだ応用練習にはならないが、自分だけに集中しなく、学生とのやり取りも大切にして、導入順番を利用して学生の理解を意識し、できるだけ総合的な練習をさせることができるように工夫した経験ができた。

最後は、授業前にどんなに質問を予想しても、意外な質問も出てくる。いつもそれを心配し、逆に教壇実習の結果に影響した。指導の先生から、先生でも分からないことがあるから、その場合は「じ

「やあ先生の宿題です。また今度答えます」と正直に答え、答えを保留することもできるとアドバイスいただいたお陰で、教師は絶対正しいという存在ではなく、教師だからこそ勉強を永遠に続けることが重要だと改めて学んだ。

## 6. イベントについて

コロナ禍のため、学習者との交流はオンラインで行った。

### ○何でも相談室

実習期間中に、東女生主催のイベントを企画する機会をいただいたので、2つのことを目的に、「何でも相談室」を実施した。1つ目は、実習生という学習者に近い立場から相談に乗ること。2つ目は、日本語のスピーキング練習の相手になること。ポスターを作成し、校内の貼り出しや教室での呼びかけによって、全学習者を対象に参加者を募った。参加希望者には、ポスターに掲載されているQRコードから、グーグルフォームに必須事項の任意名前やクラスの他に、任意で予め相談したいことを記入してもらった。当日集まったのは、中国出身の中級2人とオランダ出身の上級1人。

イベント当日の流れは、東女生・学習者の自己紹介後に、一人ひとり順番に疑問や相談に乗った。具体的には、①東京になぜこんなにも多くの女子大があるのか②ホーチミンは、第一代大統領か？③ロリータ好きの日本人と友達になりたいが、どこにコミュニティがあるのか？④大学院の進学の仕事は？⑤東京女子大学に進学したいが、提出する卒論は、以前通っていた大学の研究内容でいいのか？の5点だった。知識不足により、即座に答えられない質問や相談には、新宿日本語学校の先生からアドバイスを頂くことや、随時調べることで、学習者に分かりやすく丁寧に回答した。

### ○学んだこと・気づいたこと

学習者が興味・関心があるものを、勉強することの大切さを学んだ。学習者の方とコミュニケーションをとる中で、日本や日本文化を聞かれることが多かったが、知らないことばかりで回答するのに時間を割いてしまった。日本語教師とは、日本語を教えるだけでなく、学習者が興味を持っている日本の歴史・文化・暮らしを教えることまで期待されているのだと非常に感じた。また、口数が少なかった学習者が、書道の話をつきかけに会話量が多くなったのを見て、興味のあることを聞き出し、それを議題にすることで、話すきっかけになるのだと思った。これらのことから、日本語教師とは日本語を教えるだけでなく、自分自身も勉強することが大切であると学んだ。

## 7. まとめ

### ○服部明日香

実習を終えて先生方がコロナ禍でも常に学習者のことを考え授業を作っていく姿が特に印象に残っており、日本語教育のやりがいや難しさを間近で感じることができました。期間中は大変なことが多くありましたが、学習者の方と関わらせていただいた中で多くの学びを得ることができたことは貴重な経験だったと考えています。

### ○竹内結衣

実習を通じて、実用的な日本語を教えるまでが日本語教師の仕事だと学びました。日本に対して様々な想いや希望を抱き、日本語を一生懸命に学ぶ学習者の皆様と、授業内という短い時間で日本語だけでなく日本で生きていくために必要な知識を教える先生方との両者の情熱を肌で感じました。今回、教壇に立つ機会をいただき、日本語を導入するのは想像以上に大変だと実感したのと同時に、自分が導入した文型や名詞をマスターし、学習者の表現の幅を広げることが出来たことにやりがいを感じる事が出来ました。

### ○チャン・フォン・アイン

新宿日本語学校の実習は服装、マナー、態度等、様々なルールがあり、困難なこともありますが、難しいからこそ価値があると考えます。また、新宿日本語学校の独自教授法、教材等の誇りや先生たちが考える日本語教師のあり方、積極的に授業に参加したり、質問したりする学生の姿も、実習生として先生と学生の両方の立場から学ぶことができました。貴重な体験をさせていただいた新宿日本語学校の皆様に感謝します。

## 8. 出典

※1：新宿日本語学校「江副式教授法」

<https://www.sng.ac.jp/teacher-training/about/ezoe-method.html> (最終閲覧日：2022/10/13)



◆ ラボ日本語教育研修所 ◆

秋山萌花

加藤はづき

玉置眞愛

成田理沙子

森野々風

山口遥

## ラボ日本語教育研修所 実習報告

秋山萌花、加藤はづき、玉置眞愛、成田理沙子、森野々風、山口遙

### 1. 実習概要

期間	2022年7月4日（月）～7月29日（金）
正式名称	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所
連絡先	黒崎誠先生（実習担当） [2022年7月現在] TEL: 03-5908-3877 FAX: 03-5908-3878 E-mail: exchange@labo-global.co.jp [2022年9月以降] TEL: 03-5834-7803 FAX: 03-5834-7806 E-mail: info.labo.japanese@gmail.com
住所	[2022年7月現在] 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-26-11 成子坂ハイツ2F ・東京メトロ丸の内線西新宿駅から徒歩 5 分 ・JR線新宿駅から徒歩 15 分 [2022年9月以降] 〒113-0022 東京都文京区千駄木3-33-6 第3仲慶ビル2F ・東京メトロ千代田線千駄木駅 2番出口より徒歩1分 ・JR線日暮里駅西口より徒歩15分
学期	2022年冬学期 2022年1月11日（火）～ 3月18日（金） 2022年春学期 2022年4月4日（月）～ 6月17日（金） 2022年夏学期 2022年7月4日（月）～ 10月7日（金） - 夏休み：7月30日～ 8月28日 - 2022年秋学期 2022年10月17日（月）～ 12月22日（木）

### 【時間割】

	午前クラス (中級中期、中級後期、上級)	午後クラス (初級前期、初級後期、中級前期)
1時限目	09:15～10:00	13:30～14:15
2時限目	10:05～10:50	14:20～15:05
3時限目	11:05～11:50	15:20～16:05
4時限目	11:55～12:40	16:10～16:55

## 2. 実習内容

① ガイダンス：7月1日（金）14:00から1時間程度  
実習についての説明、実習日程の確認などを行った。

### ② 参加クラス

初級前期、初級後期、午前の中級、中級中期、上級  
期間中異なるレベルの授業を2日ずつ見学した。3つのレベル（初級、中級、上級）の  
クラスに2回ずつ参加し、合計6回見学。各週は以下のように進めた。

1日目...授業見学

2日目...授業に参加（学生として、もしくはチューターとして）

日程表を元にオンライン授業または対面授業に参加し、「授業参加（観察）記録」をそれぞれ作成。次回来校時にラボ日本語教育研修所の事務局へ提出。全実習終了後、「授業参加（観察）記録」のコピーを大学の日本語教育実習室にまとめて提出した。

### ③ 自己評価

スケジュールがすべて終了した後に「振り返りミーティング」を実施。その後、最終振り返りレポートをラボ日本語教育研修所に提出した。

### ④ 振り返りミーティング：8月5日（金）14:00から1時間程度

実習の振り返りを行った。気付いたことや自分の変化について、黒崎先生にアドバイスをいただきながらお話しするお時間をいただいた。ミーティング後、実習全体の振り返りシートを各自メールにて提出。

## 3. ラボ日本語教育研修所の特徴

### ○学生

47名（2022年7月5日現在）

中国、韓国、モンゴル、ネパール、ミャンマー、アゼルバイジャン、シリア、ウクライナ、アフガニスタン、バングラデシュ、など

### ○クラス

1クラス最大15人

初級前期・後期、中級前期・中期・後期、上級前期・後期A・後期B

### ○特色（ラボ日本語教育研修所HPより）

1. 「話す」「読む」「書く」「聞く」の4技能がバランスよく学べます。
2. 中級後期修了で日本語能力試験N1合格を目指します。
3. 私たちは漢字を文字としてではなく、語彙と考えます。そのため、漢字学習は語彙力強化の一環として、力を入れています。
4. すべてオリジナルテキストを使用します。
5. 長期コースでは、最長で2年間、日本語を勉強することができます。

### ○教材、テキスト

授業では、オリジナルのテキスト、副教材を開発して使用している。

#### 4. 各クラスでの学び

##### 【初級】

クラス	初級前期
学習者	8人
国籍	中国、シリア、モンゴル、ネパール
クラスの特徴	人数が多い。授業中、学習者同士が母語で会話し助け合う場面が多く見られた。

クラス	午前の中級（初級レベルにあたる）
学習者	5人
国籍	中国、モンゴル
クラスの特徴	学習者が新聞配達のアルバイトをしており、午後は夕刊の配達と重なるため午前になっている。テキストはイラストが多く、文法の導入も丁寧だった。

〈授業について〉

7月5日（火）対面授業

13:40 -

電話でのやり取りを学んだ。イラストを見て発話しながら、電話で遅刻、もしくは休みの連絡を入れる際の会話を学習した。その中で「もう～した。」や「～なくても～した」などの文法にも触れた。

順序としては、

①絵を見せて状況を理解してもらう。

②CD音源を聞く。

③もう一度絵を見て、発話。（重要な部分や難しい部分はもう一度音源を聞きながら）

の様に行った。具体的なシチュエーションとしては、

- ・おなかが痛いところの付き添いで病院に行くため欠席する。
- ・市役所で住所変更を行うため遅刻する。
- ・風邪を引いたため欠席する。

などがあった。

シチュエーションは全て電話でのやり取りだったが、病気に関する文法や時間に関する文法などが盛り込まれた授業だった。今回学習者が新たに学んだ文法は以下の通りである。

- ・「まだ～ない」（例：「熱は下がりましたか？」「はい、でもまだ気分がよくないです。」）
- ・「もう～した」（例：「もう住所変更届を書きましたか？」）
- ・「～しそう」（例：「遅刻しそうです。」）

- ・「～もある」（例：「熱が41度もあります。」）
- ・「～たばかり」（例：「日本に来たばかりです。」）
- ・「～しか…ない」（例：「一分しかありません」）
- ・「○○より△△の方が～」（例：「昨日より今日の方が熱があります。」）
- ・「～ても…」（例：「薬を飲まなくても風邪が治りました。」）

#### 〈見学の中での学び〉

##### ○伝わっていないことをきちんと教える

授業の冒頭、学習者の皆さんが私に自己紹介をしてくださる時間があつた。名前、出身国、趣味を各々言ってくさったが、多くの方がぼんやりとした発音で、聞き取ることができなかつた。その際私は、「聞き返しすぎては失礼かな」と考え、聞き取れなくてもわかつたふりをしていた。授業後先生に確認した所、「聞き手が理解できるまで聞き返さなくてはだめ」と教えていただいた。「あなたの発音では伝わらない」ということを学習者に教えることが重要だと学んだ。

##### ○中級、上級と比較して教材にイラストが多い

上級のオンラインでの文法授業ではイラストがあまり使用されていなかった。上級を担当されていた先生は、理由として①イラストや写真はこちらの狙い通りのイメージをもってもらえるかわからない②極力言葉で理解してほしい、という二点を挙げられていた。比較すると、初級はとにかく「使う場面をイメージする」「言葉のニュアンスをつかむ」ことに重きを置かれているように感じた。

##### ○学習者の様子に注意する

このクラスでは重要な文法が多く、学習者がメモを取る時間も必然と増えるが、メモを必死に取っているように見えて実は授業や指名されることから逃げているという可能性も考えなくてはいけないという。指名されることに苦手意識を感じてしまうことは避けたいので、説明をする時間とノートをとる時間、発言をしてもらふ時間など、時間ごとに活動を明確に分けることも効果的な方法だと感じた。

##### ○日本語以外の言語で話していることに対して注意しすぎない

初級では、同じ出身地の学習者同士で日本語以外の言語が飛び交っていることが多く見受けられたが、そのようないわゆる私語を完全に禁止するわけではないという。その理由は、学習者同士が母語で授業内容を確認している場合があるからである。その時の様子や学習者の傾向次第で注意すべきか否かを判断しているとお話を伺い、学習者一人一人と向き合っているのだと強く感じた。

##### ○学習者が共感しやすい例を用いる

中級午前は学習者が皆新聞配達のアルバイトをしているため、朝早く起きることやどんな天気でも外に出なくてはいけないことなど、共通点が多い。そのため、新しい文法を導入するときも何か共通する例文で紹介することで学習者は理解しやすく、実生活でも使いやすくなる。例を使用するときも、共感しやすい文章を事前に用意することが必要だと学んだ。

【中級】

クラス	中級中期
学習者	1名
国籍	モンゴル
クラスの特徴	人数が少ないため、学習者にあった丁寧な指導ができる。その一方で、一緒に学ぶ仲間がいないため競争意識が芽生えにくい。

〈授業について〉

7月8日（金）対面授業

9:20 - 短文読解

「お知らせ・情報検索」を問う問題を学んだ。授業の流れとしては、自力で調べながら取り組んだ後、全ての語彙を知らなくても問題を解く方法を解説。その後、説明した取り組み方で再度練習問題に取り組んだ。授業の教材として用意されていた教材のテーマは以下の通りである。

- 大学の図書館からの電子メール
- スーパーからのセールのお知らせ
- 駐輪場からのお知らせ
- パン屋開店のお知らせ
- 母の日のプレゼントのご案内
- ボートの利用案内

全ての語彙を知らなくても内容を読み解くコツとして、本文ではなく選択肢を読むところから始めるというアドバイスがあった。先に選択肢を読んで文節に分けて、本文から選択肢に関係ある部分を比べることで、より短時間で回答できるとの指導を行っていた。

11:00 - 面接練習

学習者が日本語学校を卒業後、進学や就職で受けるとされる面接の練習を行った。初回の授業日であったこの日は、話す内容よりも面接の流れを頭に入れることを重要視して授業が展開していった。ドアをノックし一言言いながら入室する、ドアを閉める、椅子の横で簡単な自己紹介を行う、面接官に着席を促されてから着席する、面接後には椅子の隣で挨拶を行う、退出時もお辞儀をしながら退出する、など日本人であれば無意識に行っていることを一つひとつ実演しながら学んでいた。

一連の流れを学んだあと、一般的に聞かれることの多いという質問を数問学習者に提示し、先ほど学んだ流れと一緒に練習した。この日学んだ質問項目は「ここ（面接会場）までどうやって来ましたか。」「学校に来る途中で財布がないことがわかりました。どうしますか。」の2種類と、学習者に聞いて面接官が追加で行う質問であった。

〈見学の中での学び〉

○短文読解の目的を見失わない教材作り

短文読解の問題は、中級中期の学習者には少し難しい単語や表現を使っていたが、それに加えて計算問題や条件を満たしているものを探す問題が用意されていた。日本語を学んでいる様子を

見ると勘違いしてしまいがちだが、学習者には母語で生活してきた十数年があり、学んでいるのはあくまでも「日本語で情報を読み取ること」であると気付かされた。

#### ○授業内容によって臨機応変に授業構成を考える

面接練習で印象的だったのが、手本を見せたり説明をしたりする前に学習者が演じるよう指示をしている場面である。なぜ説明ではなく練習から始めたのかを授業後に先生に伺うと、面接のような動きは間違いを指摘されないと直りにくいというお話であった。学習者が一人という少し特殊な教室環境が影響していることも考えられるが、無意識にできるようになるためにはまず意識してもらうことが大切であり、そのための工夫が授業構成に現れていると感じた。授業内容によって授業の構成を変え、学習者の学びを多くするための努力を知ることができた。

#### ○学習者にとって何が必要かを考えた教材作り

面接練習という学びは、日本に住んでいる日本語学習者だからこそ展開される授業であると思う。例えば海外で日本語を学んでいても、日本で就学や就職の予定がなければ面接練習は行われまいだろう。一般的な教科書を教えているだけでは、学習者が日本語学校を卒業した後に役に立つ実践的な学習項目を入れることは難しい。学習者のニーズを常に意識し、教材作りを行ってきたラボ日本語教育研修所だからこそできる学びであった。

#### ○学習者に活動の目標を示す

授業内や授業後に、面接の授業は今後上級の学習者と一緒に面接練習を行うという授業展開を伺った。それを聞いた学習者は、緊張した面持ちを見せるも他の学習者と一緒に授業を受けることを楽しみにしているように見え、今後の展開や目標を見せることで学習者のモチベーションが上がるのがわかった。

#### ○日々の学びを丁寧に積み上げ、学習者同士が学びあう環境を作る

実習終盤で上級の授業見学をした際、教員が急遽欠席となったため合同クラスとなり、中級・上級クラスが一緒に行う面接練習を見ることができた。面接練習の初回授業と比べると自然と動くことができるようになっている中級学習者に驚いたが、それと同時に面接官役を担いながら改善点を指摘する上級学習者にも驚いた。授業後に先生にお話を伺うと、上級学習者が指摘していたのは自分たちが中級の時に指摘されていた点で、人の面接からも学びを得ることができるのであった。このような中級・上級合同での学びを可能にするのは、先生方の日々の授業の積み重ねや教材の工夫があってこそだと感じた。また、普段とは違う人と面接の練習をすると、より実践的な授業が可能になると思った。

#### 【上級】

クラス	上級
学習者	7人
国籍	アゼルバイジャン、モンゴル、韓国、中国
クラスの特徴	グループワークや学習者による発表など、学習者の発話が多い。

〈授業について〉

### 7月6日（水）対面授業

#### 9:15 - 漢字の読み・文章読解

漢字圏と非漢字圏出身の学習者で教室が分かれており、漢字の確認を行った。私は非漢字圏の学習者の方の教室を拝見したのだが、単語を読める漢字から読んでいたり、漢字にふりがなをふるとき、漢字の送り仮名も一緒に書いていることが印象に残った。漢字の読みを問う際、「失敗する」「対応する」などと「する」がなくても読みを問うことができるものがわざわざプリントに書かれており、先生に伺ったところスル動詞としての定着を図っているということで、漢字の読みだけの習得でなく、多面的に考えて授業やプリントがつくられているのだと分かった。

漢字を終え教室をつなげて、先ほど学習した漢字が使われている文章「苦情は最大の友」を読んだ。一人一文ずつ読んでいき、読み方が分からなかった漢字はメモをとるよう指導されていた。この文章も日本語学習用に書かれたものではなく生きた文章であると伺った。

#### 10:05 - 擬音語・擬態語の小テスト

小テストを行い、終わった人から丸つけをした後、全体で学習者が間違えた問題を重点的に行った。後に伺うと、丸つけの際に間違っている問題番号を覚えておいて復習すると仰っていた。

#### 11:05 - 作文・考察

まず「家事の中で何が嫌いか／好きか」というテーマで短い作文を行い、教室内で共有した。「好きなもの」より「嫌いなもの」の方が書きやすいので、まず何が嫌いかを書くようにしたと伺った。次に心理テスト「川を渡る女」を読み、「登場人物の中で許せない／共感できる人物は誰か」についてプリントに自分の考えを書き出した後に発表し、それをもとに作文を書いていた。教室内での発表の際、プリントに書いていない意見やその理由がどんどん出てきたことが印象に残った。

〈見学の中での学び〉

#### ○実践的な日本語の学習を心掛けている

作文の際に横書きであることを質問した際に、学校や会社で文章を書くときに縦に書かないからという回答を頂いた。このように、実際に使うことを想定した日本語の実践的な学習を行っているのだと感じた。

#### ○学習者の日本語を引き出す努力

初級・中級と比べ、クラスでの発表など学習者の発言が授業の中心になっており、また発言量が多くなるよう工夫されていた。例えば、作文でも、好き嫌いを聞く際には文章化しやすい「嫌い」を先に聞くことで、クラス内での意見交換の活発化を図っていた。

### 7月15日（金）対面授業

#### 8:50 - 漢字テスト

各自予習をして漢字の読み書きテストを行う。テストの内容は、学習者各々のレベルや進捗に合わせてあり、1人1人内容が異なる。解き終わったら採点を行い、テストが終了した学習者から応用問題の天声人語の漢字読み問題を解く。漢字テストを行う目的は、漢字を文字ではなく「漢熟

語」として学習することである。同じ上級クラスであっても、教師は学習者各々の苦手分野を把握しながら授業を行っていることが分かった。

#### 10:15 - 自己紹介/百人一首を用いたコミュニケーションゲーム

自己紹介では私の名前を聞いて漢字を推測して聞くという流れで行った。その後は百人一首の札を使った説明の練習を行った。2チームに分かれ、特徴をもった札を選別し、その特徴を相手に具体的に説明する。日本語を相手への説明、質問を通して使用する、コミュニケーションを取ることを意識されていると分かった。

#### 11:20 - ぼうずめくり

絵札とルールの確認後、基本的ルールでぼうずめくりを行う。その後しりとりをしながらぼうずめくりを行った。

#### 12:10 - ぼうずめくり (チーム替え)

チームを変えて同様にゲームを行う。最後は各自振り返り、シートを提出する。

#### 〈見学の中での学び〉

「一定時間、円滑なコミュニケーションが取れること」が目的であり、日本語能力そのものに加え、日本語を用いたコミュニケーションが活動全体を通して重要視されていた。そのため、授業では「日本語を学ぶ」ではなく「日本語を用いてコミュニケーションを取る」場面が主であることが分かった。

上級は、会話や授業中の質問、漢字などどれもレベルが高いなと思っていたけれど、授業のまとめで書いた文章を見てみると、文法が間違っている箇所が意外と多く見受けられた。また、漢字力や語彙力はあるはずなのに簡単な言葉で書いて済ませている学習者もいた。各学習者のさまざまな面を把握して適切に対応することが重要だとわかった。

## 5. まとめ

### 【実習を通して気づいたこと】

○学習者はそれぞれ個性がある、という当たり前のことに改めて気づかされた。国籍や母語の違いはもちろん、4技能の中でどれが得意/苦手か、どんな学習方法が好きか、等も学習者によって様々で、教師はそれを見極めながら、集団での授業を組み立てるといった難しさがあると感じた。

○オンライン授業の難しさを改めて実感した。オンラインだと学習者同士で会話をして助け合うことが難しく、授業のスピードに着いてこれいない学習者も見受けられた。

### 【授業における工夫】

#### 〈教材作りと使い方〉

○ラボのオリジナルテキストのみではなく、教師によるプリントや生教材を使って授業が行われていた。例えば漢字のプリントでも、「失敗する」などと敢えて「する」まで表記し、スル動詞であることを意識させるなど、多角的な面から考えられて作られている。

#### 〈コミュニケーションを重視した授業〉

○ラボでは学習者と教師の双方向のコミュニケーションが重視されていたように思う。発言量が教師に偏ってしまいがちな初級のクラスでも、学習者が分からないところを積極的に質問し、授業の中で共有されていた。また、そのような質問をしやすい雰囲気づくりも先生方は行っていると感じた。

#### 〈生活や卒業後を見据えた授業作り〉

○中級の面接練習や上級の日本語を話しながら作業をする練習など、学習者が日本語学校を卒業した後に役に立つ授業が用意されていたことが印象的であった。日本で進学や就職を経験するとしたら必要なスキルだが、授業等で触れてきた日本語教育のテキストや模擬授業では扱ったことのない題材である。これまでは「リアルな日本語教育」を考える際に、現実の場所や文化など取り扱う題材を現実にあるものにすれば学習者にとって有意義な学習に繋がると思っていたが、日本での生活でリアルに体験する可能性のあるものを学習項目にする授業が可能であるという気付きを得ることができた。

#### 【実習を通して学んだ「日本語教師」の仕事】

##### ○学習者の日本での生活サポート

授業とは別に、面接の練習の場を設けたり、学校や企業に送るメールの書き方を教えたり、学習者の家に届いた重要書類の内容を伝えたりしていて、日本での生活のサポートも教師が担っているのだと感じた。

##### ○学習者を見ながら授業を展開する

授業というものはある程度スピード感を持って流れるように進んでいくけれど、その中で教師は常に学習者の反応や理解度を確認しながら生活に役立つようなことを共有しているということがわかった。

##### ○言語教師とは「コミュニケーションを教える」仕事であるということ

日本語教師の先生方の特徴として、「コミュニケーションを大切にしている」と言う共通点があることに気付くことができた。その日の学習内容によっても異なるが、初級・中級・上級どのクラスでも日本語教師は学習者とのコミュニケーションを積極的に行っている様子であった。学習者が遅刻したり、思わぬところで説明の時間を使ったり、何度もわかるまで聞き返したり、全てが教材通りにいかないこともあったが、それでも学習者と対話する時間を大切にしていた。先生方にお話を伺うと、日本語教師は日本語をただ言語として教えるだけではなく、「日本語でのコミュニケーションを教える」のが仕事であるとのことだった。日々学習者の話を聞き、教師がコミュニケーションを積極的に取る姿勢を見せることで、学習者も安心して質問や発言ができる環境が作られているのだと感じた。

#### 【学習者に対する考え方の変化】

○学習者とグループワークをした際、学習者の日本語レベルに合わせなければと思ったのだが、順序だてて分かりやすく話すことが出来なかったことがあった。クラスでの発表は学習者に任せるということになっていたので、上手く伝わっているか不安だったのだが、学習者は適切に話をまとめて発表していた。学習者のことを信頼する、ということも、教える側として大切なことなのかもしれないと感じた。

○学業や仕事のために自ら日本語を学んでいる学習者が多いため、「真面目に勉強している」イメージを勝手に抱いていたが、実際には各学習者の生活や性格によって得意分野や学習態度は当然異なり、その点において私たちと同様の学習者なのだと感じた。

○奨学金制度を利用し、早朝や夕方に働きながら通学と両立している生徒は少なくない。そのために生活バランスが崩れてしまったり、授業に寝坊してしまったり、授業中にどうしても眠くなってしまいう学習者もしばしばいるという現実を知った。

○漢字圏の学習者は一概に漢字学習を得意としているわけではないことに驚いた。母語での意味や発音に影響され、日本での読み方や意味を覚えられないことが多いという。

○これまで学んできた中で知った「日本で日本語を学ぶ人」は、先生から聞く話や動画で見る話など、正直なところ人伝に聞く話だった。海外で会った日本語を学ぶ人も生活に日本語が直結はせず、趣味や将来のキャリアに向けて学ぶ人が大半であった。しかし、今回の実習で実際に学んでいる人に会い、存在がより身近になったことが大きな変化であると感じている。海外で生きる難しさは私もわかっているつもりなので、困っている人がいたら積極的に声をかけていきたい。

#### 【日本語教師に対する考え方の変化】

○「学習者のことを見る」ということそのものは、元々必要だと知っていたが、自分が思っていた程度よりもずっとよく学習者を見て、その日の授業の組み立てや、今後の授業の見通しを考えていた。クラスの中で、おそらく自身も日本語能力に自信をもっていて、グループワークも自分でどんどん進めている学習者がいた。私は「日本語のレベルが高いな」くらいしか考えていなかったのだが、教師の方が「これからあの学習者がたくさん失敗をすることが大切、どのようにこれから学習させようか」と仰っていて、とても印象に残っている。

○発言が好きな学習者、ノートに書くことに集中しがちな学習者、ノートに集中して書いているように見えて発言から逃げている学習者など、教室の中にはさまざまなタイプの学習者がいるので、それを見極めて最適な声かけや対応をすることが教師に求められると感じた。

○日本語教育実習を通して、日本語学校は単なる「語学学校」ではなく「学校」であり、日本語教員も「学校の先生」であるということに改めて気付かされた。日本語教育実習に行く前は、言語教師であるというイメージが強かったように思う。しかし、大学の授業だけでは学びきれない現場の温度感を知ったことで、日本語教師に対する考え方が変化した。また、実際の授業を見学し、日本語を身につけて実際に使うところまで想定した活動を目の当たりにして、生きた言語を教えるための工夫をし続けることが日本語教師に求められることだと感じた。

#### 【実習で感じた自分の「変化」】

○「授業は教師と学習者でつくる」ということは、理屈では理解していたつもりだったが、今回の実習で、学習者の様子を見ながら臨機応変に授業を行う教師や、主体的に発言し授業に厚みをもたせる学習者を実際に見ることで、このことを肌で実感することができた。

○授業内容の理解を深めるために用いられる「たとえ」や「言い換え」の重要性を理解し、自分で使うことができた。

○語彙の意味一つ教えるにも圧倒的な実力不足を感じた。「密漁」という語彙の意味を教える際私がうまく説明できず悩んでいると、学習者が「取ってはいけない動物がいます。しかし悪い人がそれを取ります」と自分なりの解釈を話してくださった。その説明は私の何倍もわかりやすく、まだ学習者の目線に立つことができていないのだと改めて実感した。

○私たちの実習は1か月であったが、実際の現場では学習者と数年単位で関わり、さらに同時に複数のクラスを掛け持つこともあると考えた時に、一回一回の授業に工夫を凝らし全力で学習者と向き合う日本語教師のパワーに圧倒された。肉体的にも精神的にも、思っていたより何倍もハードな職業であると知れたことはひとつの大きな学びである。

○日本語教育実習を終えて、日本語教育に関わりを持つ一員であるという自覚が生まれたことが最も大きな変化であると感じている。これまでは授業や動画で見てきた世界だったが、日本語教育の現場に参加することで、日本語を学ぶ外国人を身近に感じることができた。また、日本語教育の難しさも感じつつ、実習序盤で学んだことを生かしたことで日本語教師の楽しさも感じることもできた。これからも自分にできる形で、日本語教育と関わっていきたいと思ったことが変化である。

○学習者とコミュニケーションをとることを意識した際、やはり教師の方々のように上手くはいかないことに気がついた。その中でも自分なりのコミュニケーションや答えを出してみることで、新たな気づきや、次はこうしようという発見があるのだと知ったことが変化である。

◆実習を振り返って◆

個人レポート概要



フィールド実践を行うに際して、学生は個々の目標を設定し、実践期間中に振り返りのためのデータを収集した。実習終了後、各自の目標に照らしてフィールド実践がどうであったかをデータの分析をふまえて振り返り、レポートにまとめた。

レポートのタイトルと概要は以下のとおりである。

## 【オンライン実習：フィールド実践 A】

### はなび

#### ● 岡田菜央「学びと楽しさの両立」

今回のオンラインの活動は、「学び」と「楽しさ」を両立させることの難しさを痛感するような機会となった。学習者がどのようなことに興味があり、何を学びたいのかを想像し、試行錯誤することが必要であり、「学び」を考えるあまり「楽しさ」がなくなってしまうことも多々あった。しかし、オンラインでも同じ時間を共有し、学習者の方と向き合うことで、彼らがどんな事に興味があり、学びたいと考えているのかを少しずつ理解し、教案に反映させることができた。このように、学習者について理解することの大切さという、日本語教師として不可欠なことを、身をもって学ぶことが出来た。今回の学びを今後も生かしていきたいと考える。

#### ● 鈴木詩菜「学習者にとって有意義なクラスにするために」

オンラインクラスが、学習者にとって有意義な時間にするにはどうすべきかを考えながら、実習に取り組んだ。学習者間で発話量に差がある、接続不良など予想外のアクシデントへの対応に上手く対応できないなど、日々反省点があったが、一日ごとに反省会をし、そこで出た意見や先生方からいただいたフィードバックを踏まえ、翌日のクラスで改善につなげることができた。また学習者の出身地の食べ物や文化など、学習者から学ぶことも多く、大変実りのある活動になった。反省や課題は多く残ったが、それを改善するための案を出し合うなど、多くの経験も得た。実習で得た学びと出会いを、今後の自分の進む道に活かしていきたい。

#### ● 成澤咲希「目標達成の過程で見つけた新たな目標」

オンライン日本語クラスでの実習は前データが少なく準備の段階から試行錯誤の連続だったが、筆者らのチームは日本の魅力の一つであるジブリ映画に焦点を当て、オンラインだからこそ有効である教案づくりを心掛けた。事前に立てた目標を心掛けながら実習に取り組んだが、想定していなかった問題も起こり日々チームで話し合いをしては改善に努めた。筆者は実習中のフリートークを大切にしていたが、学習者と話をする中で「授業を通じて新しい観点から日本に興味を持ってもらう」という新たな目標を見つけた。そこからアイスブレイクを活用し、全員が関心のある「千と千尋の神隠し」から派生する題材を用いながらそれらの要素を入れるなど流れを変えることなく授業に取り入れられるよう工夫をした。結果、多くの日本食や日本の都市に興味をもって

もらうことに成功した。学習者との対話から得た気づきを活かし、柔軟に対応できたことが目標達成に繋がったと考える。

### ● 西山佳那子「学習者と教師の『自信』によって増す『学び』」

「日本語レベルが異なる学習者全員が授業内容を理解し、一人一人が『はなびの授業でコレを学んだ』と思えるような、実りが実感できる授業を作る」という個人目標を立てた。できるようになったという経験を増やしていき自信をつけていくことが、今後の学習者の日本語学習への内的動機に繋がると考えたからだ。目標達成のために、学習者がリラックスして参加できる雰囲気を作ること、学習者に発言してもらう機会を多く持つことの主に2つを意識した。実習を通して、座学で理解していたことを実践することの難しさを痛感した。本レポートでは、学習者と教師の自信がどのように作用して学びに繋がるのかについて、雰囲気の重要性、教師と学習者で共に作り上げる授業がもたらす成功体験、教師の自信が授業の質を左右するという3つの項目に分けて分析した。学習者と教師は互いに学び学ばれの関係性であることが最も重要であると考えた。

### ● 野平ひなの「教案を越えたクラス作り」

私の実習前の目標は、「言語コントロールに注意して、学習者とのコミュニケーションを多くとる。」だった。しかし、実際のクラスでは、言語コントロールばかりを意識するあまり、学習者からの想定外の発言に対応できないことが複数あった。対して学習者とのコミュニケーションはチーム全体で積極的にできた。参加してくれた学習者全員が「楽しかった」と言ってくれたことは大きな財産である。翻って、言語コントロールを意識することはもちろん大切だが、それは授業が始まる前までに対策してくることであって、授業が始まればもっと学習者のために思考を働かせなければならない。当たり前のことだが、今回の私は授業をスムーズに運営することばかりを考えて、学習者が「もっと学びたい!」と思えるような場を作ることができなかった。チームでないとできなかったことを、今度は自分の力だけでもできるように工夫したい。

### ● 渡邊実怜「校内実習における目標達成度と改善策」

実習の目標としてチームでは「千と千尋の神隠し」の映画を通して「食べる」について考えようと設定した。食だけでなく、映画を活かしキャラクターにセリフを付けたり舞台になった土地の紹介など独創的なワークなどを使用し学習者の方に楽しく取り組んでもらえるよう工夫した。個人の目標としては参加するにあたり個人が望んでいることが達成できるようにサポートしていきたいと考えていた。アンケート調査などを実施し、満足度に関しては高いことが分かった。この結果は学習者の方のニーズを理解することができた結果だと考える。留学の為に、将来日本で働きたいなど様々な理由で学習者が参加していた。これらの学習者に合わせ教案を臨機応変に対応することの重要性をも学ぶことができた。学習者の方にバックグラウンドは多種多様であり学習目的も多岐に渡っていることを実感した。その中でどのようなやり方で何を伝えるのかと言うことを常に念頭において授業をすることが求められていると感じる実習であった。

## ホラーナイト

### ● 小山芽来「私たちだからこそつくれる日本語教室とは」

私たちのチームの実習は「東京女子大生が一からつくる」、「オンラインの」、「日本語レベルレベルがバラバラの学習者が集う」授業という他のチームとはやや異なる条件が揃う環境下で行われた。その個性を活かし日本語学校の教科書では教わらないことを教える、をベースに授業を組み立て、オリジナル妖怪図鑑の完成を目標とした。授業を進める中で一番尽力した点は、学習者が積極的に発言したくなる空間づくりである。その空間づくりのために学生は学習者一人一人の様子をよく見てその情報を共有し、グループ分けや指名の順番選びなどに活かした。一方学習者の方も他の学習者に会話を持ち掛けたり回答の助け舟を出したりするなど、お互いがお互いを支える雰囲気を作っていた。今回の実習で学んだ最も重要なことは「教室は教師だけでなく学習者も含んだ全員でつくりあげるもの」である。これは上記であげたように個性的な条件が揃うこの教室だからこそ、より強く実感できたものだ。

### ● 志寒由佳「学習者を惹きつける授業とは」

今回で二回目となるオンライン日本語クラスで前例が少ないことから苦労も多かったが、準備期間から実習中を通してその分得るものが多い日本語教育実習だったと感じた。筆者らの日本語クラスのチームは「妖怪図鑑をつくろう！」というテーマのもと準備を行った。学習者を惹きつける授業には様々な工夫と心掛けのどちらも必要であると考えた。具体的にはスライドの中にイラストや音を盛り込む、学習者がイメージを掴みやすいように映像を見せることが重要であると感じた。また、文化的な面の説明だけではなく、日本語学習も盛り込むことで学習者の成長を手助けすることが大切である。更に学習者の発話量にも気をつける必要があるが、学習者に積極的に発言してもらうためにはまず、クラスの雰囲気づくりが何よりも大事であると今回の実習を通して実感した。筆者が今後日本語教育に携わる際には以上の点に気を付けて、学習者を惹きつける授業を行いたい。

### ● 塚田莉都「些細な準備の重要性」

日本の文化を紹介したいとの思いから、実習期間の夏の日本文化である怪談を取りあげたく、学習者の興味を引くことができそうな題材として、妖怪をテーマに設定した。しかし、グループでまず直面した課題は「妖怪とは何か」という素朴な問いであった。教師の立場となる自分が、学習者よりも妖怪に無知である可能性に気が付き、実習までの期間でどれだけ妖怪に詳しくなることができるかが課題だと実感した。そのための教材研究は必要不可欠な準備であると理解しながら、かなりの労力を要する準備であった。しかしながら、教材研究をしっかりと行ったことで、学習者が知らない情報を提供でき、飽きのない授業となったと考えている。始まってしまえば、とても楽しくあっという間の5日間であった。授業準備はいくらしても足りないことを痛感し、「知る」という些細な準備でさえもいかに重要であるかを実感した。

### ● 村田美理「学習者と指導者の会話量とその考察」

初めの頃（特に1日目）、想定していなかったトラブルがいくつか起きたとき、思うように対処することができない場面が多かった。オンライン上の授業ということもあり、やはり機材におけるトラブルも多かった。しかし、日数を重ねていくうちに前回の授業で起こったトラブルを復習しながら解決していくことができた。また学習者たちの反応を見る余裕も段々と生まれて、自分なりの交流ができたと思う。ただ、今回5日間無事終えることができたのは、やはり他の東女生たちの助けがあったからであり、もしこれが自分ひとりで行っていたとなると、対処しきれない場面もあったと感じる。ひとりで立派な授業を完成させるには、より多くの経験を積むことが大切であり、余計な準備であると思うことでも念入りに準備することがいかに大切であるかを今回の実習で実感した。

### ● 矢木萌花「学習者が主体的に参加したくなる授業とは」

「学習者が主体的に参加したくなる授業とは」というテーマで論じた。学習者が興味を持ちながら積極的に授業に参加するには、2点が重要だと考えた。1点目は「学習者の発言量を増やす」2点目は「学習者同士のコミュニケーションを増やす」という点だ。1点目は、コーラスや、学習者に予習をしてもらうという工夫や、教師が沢山質問を投げるといった工夫が有効だと考える。そうすることで、双方向的な授業ができる。2点目は、教師と学習者だけでなく、学習者同士のコミュニケーションを充実させることで、学習者が学びやすい空気環境を築くことができると考える。そのためには、授業前後のフリートークの時間や、教師が意識的に話しを振るなどの工夫が良いと、実習を通して考えた。当初の目標を達成できなかったものの、そこからの反省点を活かし、以上の2点を行うことで、学習者が主体的に参加したくなる授業になると考える。

## 【学外実習:フィールド実践 B・C】

### インターカルト日本語学校

#### ● 佐々木美月 『やさしい日本語』への気づき

「やさしい日本語」とは、「漢語を和語に変える」ことだけではない。「やさしい日本語」を使うために必要なことを4つ挙げる。一つ目は、自分の意見を持ち、伝えたいことを簡潔に表せる要約力だ。二つ目は、助詞についての知識だ。普段から無意識に使う助詞こそ、日本語の特徴が隠されており、それを一般的に使えることになることが、学習者のゴールだ。三つ目は、日本語文法についての理解だ。そのための『みんなの日本語』の分析は必須だと考える。教師は、教科書全体を通して導入事項をよく知っている必要がある。四つ目は、言い換えの語彙を蓄積することだ。これは、私が今まで「やさしい日本語」の核だと思っていた、「漢語を和語に変える」と共通する。語彙を増やすための努力をする必要がある。

#### ● 爲国結莉恵 「学習者のためになることとは」

今回の実習で「現場の雰囲気や学習者との交流を大切にしながら、学習者にあった伝え方や教え方を考え、実践する。」という目標を設定した。実習期間中、学生との会話を大切に、学習者について理解しようと努め、教壇実習の際には学習者とのコミュニケーションにも活かすことができた。しかし、教壇実習において、未修の漢字を板書するなど学習者のレベルにあった教え方について意識が足りず、準備不足な点もあった。また教師が一方的に教えるのではなく、学習者が「話したい」と思える授業を展開することの難しさを学んだ。一方、見学した授業では、あえて学習者の言語レベルに合わせず、学習者は教師やレベルの高い学生の話し方を「見て学ぶ」という授業もあり、教師に必要とされる発話コントロールに私自身戸惑った場面もあった。今回の実習を通して、教育現場には常に「学習者のためになることは何か」について考えることが重要であると学ぶことのできた貴重な経験となった。

#### ● 長岡彩乃 「日本語学校の授業における教師の取り組み」

私は、授業見学時に授業の進め方や学習者への接し方を学び、最終日の教壇実習で実践するという目標を設定し実習に参加した。授業見学をさせて頂いた際に、特にテンポ良く授業を進め、学習者が学習内容に興味を持つような話題をいくつも提示することが大切であると感じ、教壇実習で実践した。結果として話題をいくつも考え教案を作成することはできたのだが、テンポ良く授業を進めることができなかった。今回の実習を通して、一つの価値観や考えに囚われず広い視野を持つことが大切であることを学んだ。また、自分の将来のために一生懸命な学習者を見て、とても刺激を受けた。この実習で感じたことや得た学びを今後の人生に活かしていきたい。

### ● 能町知芳「日本社会での実践を想定した日本語学習の場づくりの工夫」

私は今回の実習において「日本社会での実践を想定した日本語学習の場づくりの工夫」という観点から授業見学を行い、3つのことが分かった。1つ目は、会話練習や新しい文法項目の導入の際に、実際の日本社会での生活で想定されるシチュエーションを取り入れることである。2つ目は、バックグラウンドの異なる学習者とペアワークや意見交換を行う機会を設けることである。これにより、自分たちとバックグラウンドや価値観の異なる人たちと関わる社会の場を実践した学習の場が実現していたと考える。3つ目は、日本の歴史やトレンドなど日本についての知識を学ぶことができる授業教材及びテーマを扱っていることである。実習期間中、総合日本語クラスや目的別クラスなどレベル問わず沢山の授業に参加させていただいたが、どのクラスでも、上記のような日本社会での実践を想定した学習の場づくりの工夫がなされていた。

### ● 山崎鈴花「学習者が話したくなる授業とは何か」

実習に参加するにあたり「学習者の学習目的を知り、授業の進め方やアプローチを実践的に学ぶ」という個人目標を立て、実習に参加する中で「学習者が話したくなる授業」にするためにどのように授業を進め、どのような配慮が必要なのかという視点に気付き、考えた。実習を通して学習者が話したくなる授業とは、個人の文化背景や性格特性、学習背景などあらゆる観点から学習者を考え、自然に話したくなる気持ちを促すことのできるよう配慮された授業であると考えようになった。また、一見同じに感じる学習者の学習目的も交流する中で日本語を習得した後の最終目標が異なることに気付き、学校では学習者の目的やニーズを満たす目的別授業を設けることでより話したくなる気持ちを促進させる取り組みをしていることを学んだ。今回の実習は授業への姿勢や日本語教師の意義について学び、深く考えることのできた貴重な経験となった。

## カイ日本語スクール

### ● 市橋聖子「日本語教育において重要な客観化」

実際の日本語教育の現場で実習をし、学んだことは、論理的かつ客観的な教育をすべきということだ。日本語教育は、日本語のネイティブだからと言って感覚的にできるものではなく、文章の添削の際の判断基準や、敬語とため語を使い分ける際の条件など、自分と他の人のやり方が同じとは限らないということに改めて気づき、日本語を教える基準を客観化し、裏付けを意識して指導することが正確な指導につながると学んだ。これは実際に学習者からの質問を受けたり、添削をしたりしてこそ気づけたことであり、教科書通りに日本語を教えることだけでなく、学習者一人一人の多様性を受け入れ、工夫を凝らすことが重要であることを身をもって体感できた実習期間だった。

### ● 大河原涼々「日本語教師の専門性」

私は本実習を全てオンラインで参加したが、ハイフレックス型授業にオンラインで参加していても教室の様子が見え疎外感を感じることが全くなく授業に参加できた。そしてカイ日本語

スクールではその環境下で独自のデジタル教材を使用して授業が行われている為、学生が自由に参加方法を選ぶことができ、同じ満足度を得られることはとても良いと感じた。またこの授業を通して、生徒のレベルによって指導内容を柔軟に変化させることや、学習者の視点に立ち、日本語を第二外国語として捉えることの大切さと難しさを知り、それを身に着けることが日本語教師の専門性なのだと感じた。日本語教育学校の授業を体験できたことはとても貴重な機会であり、多くの学びがあった。

### ● 佐川愛美「大人のための日本語教育」

カイ日本語スクールでの3週間の教育実習を終え、まず一番に感じたことは「大人のための日本語教育」だということだ。カイ日本語スクールの学習者の多くが20代後半から30代の方だった。言語能力だけで学習者の能力を判断しがちであるが、日本語レベルは人それぞれであっても学力や知識は私より優れていると感じる優秀な学習者ばかりだった。漢字一つの学習方法においてもアプリやテキストなど何を使ってどのように学ぶかというのは、各学習者の好みやスタイルがあり、それを尊重する形をとっていた。グループワークでも自身の宗教や政治観を掘り出しながら話している姿がとても印象的で様々な文化、価値観、個性を持つ人が同じ空間にいるということを実感した。学習者一人一人の多様性を受け入れ、尊重していくことが大人のための日本語教育に必要なと感じた。

### ● 佐々木あおば「学習者主体の授業とは」

私が実習を通して、特に印象深かったことは2つある。1つ目は、学習者を飽きさせない工夫である。特に、漢字学習においては、教師によって教え方が異なっていた。漢字を教える際にパーツごとに分解して、そのパーツにどんな意味が含まれているのかを伝えることで、漢字の意味を理解しやすくしていた教師もいれば、折り込み広告を用いて授業を行う教師もいた。非漢字圏の学習者にとって漢字は難関であり、その難しさで学習が嫌になっていくことを避けるために楽しく学び、長く記憶してもらえる工夫が必要になることを学んだ。2つ目は、教師が介入する割合の調整である。今回見学させて頂いた中級クラスは、上級クラスに比べて学習者主体の授業を行っておらず、教師が介入する割合が多かった。一方で、上級クラスは、中級クラスに比べて学習者主体で授業を行っていた。もちろん、教師の介入が全くないわけではなく、状況や必要に応じて教師が学習者の理解をサポートする必要があることを学んだ。

### ● 松岡咲良「カイ日本語スクールにおけるオンライン授業とデジタル教材の活用」

実習を通してカイ日本語スクールではデジタル化が大きく進んでいることを実感した。1人ずつタブレット端末が配布されているため、文法事項を事前に動画で予習した上で授業では問題演習を行う「反転授業」が行われている。また、教材に関しても全てデジタル化されているためそのまま動画を視聴するなど様々な活用が見られた。さらにオンライン授業では開始前に学習者の状況を問うような声かけが積極的になされており、教師と学習者との間で信頼関係が築かれていると感じた。対面でもオンラインでも状況に関わらず日本語を学ぶのに的確な環境が実現できる

のは、日本語教師の皆さんの学習者に立った視線で工夫をなさっているからだ。今回の実習を通して目にした日本語教育の工夫や教師の立ち回りを今後様々な分野に活かしていける大きな可能性に期待したい。

## **新宿日本語学校**

### ● 竹内結衣「実生活に繋げる日本語教育とは」

新宿日本語学校で、名詞・形容詞・文型の導入を経験させていただいた。実習を通して、日本社会で生きていく上で必要な日本語教育について考えた。私は、文型の導入時、学習者に興味・関心を持たせ、楽しい授業を行うことを目標にしていた。例文や練習問題に、日本のアニメキャラクターや日本文化を使用し、日本語学習のハードルを下げようと考えていた。しかし、それでは実生活で使用する日本語とは異なり、その場限りの例文になってしまうことが多かった。学習者にとって必要なのは、楽しい授業ではなく、ためになる授業であり、それを実施するのが真の日本語教師だと学んだ。授業日ごとに、導入するよう設定されている文型をただ教えるだけでなく、日本文化に馴染めるような言い回しなど、授業後の日本語使用まで責任を持つことの大変さを痛感したのと同時に、やりがいを感じる事が出来た。

### ● チャンフォンアイン「実習生から見る授業と日本語学習者から見る授業の違い」

今回の実習において、私は三つの目標を立てました。その中に②「実習生の立場から日本語の授業を把握し、自分で授業を担当することができる」という目標の達成度が最も高く、具体的なデータ収集が進められたと考えるため、その目標を中心に、「Plan - Do - See」という実践で活動全体の基本的な流れに基づいて、目標設定、フィールド実践と振り返りの3つのステップから評価した。まず、この目標を選んだ理由は、自分が実習生だからこそやるべきだと考えるものと、実践の重要性を意識しながら実習を終えたいからである。その目標を達成するために、まずは教師を観察し、気づいたことを報告し、分からないことを聞いた。次に、学習者と仲良くし、関心を持つことで、学習者の特徴、考え方やニーズを理解するように心がけた。最後は毎週の教壇実習を準備し、実現とその振り返りを繰り返してやった。反省点も多くあるが、自分が真剣にやり、失敗を恐れずに、間違っても「とりあえずやってみる」という考えの大切さを学んだ。

### ● 服部明日香「授業における意識と知識」

私は新宿日本語学校での実習を通して「授業に積極的な参加を心がけ、学習者の理解を助けられるようになる。」ということを目指して設定しており、この目標を実習レポートの記録を基に振り返った。「授業に積極的な参加」という点でははじめはできていないことのほうが多かったが、担当の先生からアドバイスをいただき取り組み方を変化させていったところ学習者に自ら声をかけ授業に参加することができるようになった。「学習者の理解を助ける」という点では自分の知識や技量がまだまだ不足していることを実感し、日本語教師という仕事は常に学び続けることが必要であると感じた。目標の達成度としては高くはないが、試行錯誤して取り組んだことや学習者と

コミュニケーションをとれたことによる学びは多い実習にできたと考えている。

## **ラボ日本語教育研修所**

### ● 秋山萌花「学習者に対する教師の工夫や心がけについて」

『約束を守る』という、日本社会に受け入れられるための鉄則をここで身に付けることができるよう心掛けて普段から学習者と関わっている」という先生の言葉は非常に強く印象に残った。また、「ラボの先生方は全員そのような思いで学習者と向き合っていると思う」と。中級中期クラスでは授業で使用するテキスト代について、教師-学習者間で「この日までが支払い期限であるが何日にお金を払えるか」というやり取りを行い、学習者の給料日をふまえて「〇日に持ってくる」かを重ねて確認していたのが印象的であった。特に学習者がルーズになってしまいがちな金銭や期限の絡むものは、当たり前前に約束を守ることができるようにと心掛けて関わっているとのことだ。

### ● 加藤はづき「コミュニケーションと変化に着目する」

自分自身の考え方や固定観念に対し、変化があったとともに「コミュニケーション」とは一体何なのか、実際の現場で学ぶことのできる実習であった。例えば、先生は先生っぽい、ゆっくりした話し方をするだろうという考えや、初級では座学ばかりで知識をつめこむことが多いだろうという考えがあった。しかし実際は学習者のレベルに囚われずスピード自体は変えていない初級前期であっても座学ばかりでないなど、必ず「コミュニケーション」を大切にしており、日本語は言語というツールであるのだと自身の固定観念がくつがえったように思う。日本語教師は日本語を教えるだけではなく、それはあくまでベースであり、日本語を使って学習者の目標をサポートするものなのだと感じた。そしてそれは日本語教師という職業に関わらず、誰しもが意識や経験を積んで出来るようになることだと考えた。

### ● 玉置眞愛「質の高い日本語教育を創り上げる教師と学習者の在り方」

6日間の実習を振り返って、日本語教師は各学習者の得意・不得意分野や性格を見極めて臨機応変に授業を行うことが重要であると分かった。そして、ラボ日本語教育研修所では、学習者の特徴を把握しやすい少人数のクラスで編成されており、質の高い授業につながっていると感じた。実習を通して印象的だったのは、生活で役立つことに重きを置いた活動が多くあることだ。たとえば上級クラスでは、カードゲームをしながらしりとりも同時に行うという活動があった。これは、生活の中で当たり前起こる「ある作業をしながら別の作業も行う」ことを実践する場になっている。また他にも、学習者だからといって「教わる」だけでなく「教える」ことができる場が設けられていることを知り、学習者は様々な面から成長できると感じた。

### ● 成田理沙子「実習を通して変化した考え」

私が実習を通して感じた三つの「変化」があります。一点目は、自身が学習者に対して一方的なイメージを持っていたことに気づかされ、それらを改めたことです。日本人よりもフレンドリーというイメージや、日本語学のモチベーションが高いというイメージがありましたが、普段の生活の多忙さからむしろ日本語学習に疲弊している学習者も見られました。次に学習者への接し方の「変化」。こちらに伝わっていないことを伝える重要性を学んでから、うまく聞き取れなかった時は聞き返すよう心掛けるようになりました。一方でやはり「ストレスに感じられていないか」という不安もあり、教師と学習者という関係以前に「人と人」の会話である難しさを感じました。最後に教師という仕事への考え方の「変化」。ただの言語教師でないことを改めて突き付けられました。学習者と向き合い、彼らの学校以外の生活まで配慮した上で積極的なコミュニケーションを取ること、彼らに適したオリジナルの教材を作成することの過酷さを肌で感じました。

### ● 森野々風「学習者目線に立つ」

ラボでの6日間の実習を通して、「学習者目線に立つ」とはどういうことかを肌で感じる事ができた。実習前は、学習者に伝わるようこちらが言語コントロールをすべきなのではないかと考えていたのだが、ラボではなるべく生きた日本語に触れられるよう工夫しており、イメージとの乖離があった。また、私がわかりやすい日本語を意識しすぎて、むしろまとまっておらず分かりにくい伝え方をしてしまった際に、学習者が理解して上手くまとめてくれた、という経験をして、学習者のことを信頼することも大切なことなのではないかと思った。そして、先生方は、学習者をよく見ており、単に観察をするだけでなく、学習者の様子を見ながら、声のかけ方や、先々の授業の進め方を考えていた。このことから、教師が「学習者目線に立つ」というのは、学習者を信頼して、学校の外でも使われているような生きたコミュニケーションを行い、また、丁寧に学習者を観察し、これからのサポートを考えることである、と分かった。

### ● 山口遥「リアルなコミュニケーションを教えるために」

ラボ日本語教育研修所での日本語教育実習を終えて、日本語教師に求められるのは「語学学校」の教師ではなく、「学校」の教師であるという意識であることを学んだ。今回の実習では、授業で行われる活動や教師の言動を見てその意図を把握し、実習の中で行動に繋げることが目標とした。日本語教育の現場で教材や授業内での工夫に触れて、学習者の実生活や将来を考えたリアルな日本語でのコミュニケーションを教えることは非常に難しいことがわかった。日本語教師は、学習者の背景を考え、学習者の生活を考え、活動の意図を明確にして日々の授業を受け持つことが求められる。現場で教えている日本語は、単なる文法や語彙だけの学びではなく、日本人のコミュニケーションを切り取った「リアル」な日本語だった。学習者のために授業内外のコミュニケーションを大切にすラボ日本語教育研修所の教師の皆さんの熱量と、学び続ける姿勢が必要であることが大きな学びだった。

2022 年度 日本語教育実習報告書

2023 年 2 月 1 日発行

編集・発行 東京女子大学 日本語教員養成課程

〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1

実習担当者 石井 恵理子・松尾 慎・吉本 恵子

印刷 NPC 日本印刷株式会社

